

## 平成 30 年度 第 1 回 第 2 期健康横浜 2 1 運動検討部会について（報告）

## 1 趣旨

本部会は、健康横浜 2 1 推進会議運営要綱の第 7 条に基づき、横浜市の附属機関である健康横浜 2 1 推進会議の部会として設置しました。横浜市における運動の推進をテーマとした事項等について検討いたしましたので、経過を報告いたします。

## 2 検討会の実施状況

## (1) 検討会メンバー

第 2 期健康横浜 2 1 運動検討部会委員 5 名（資料 3-2 参照）

## (2) 開催日と議題内容

日 程	議題内容等
平成 3 1 年 2 月 6 日（水） 1 4 時～1 6 時	1 運動に関する現状と課題について 2 よこはまウォーキングポイント事業について 3 具体的な取組の検討 (1) 継続して運動に取り組める方法、働き・子育て世代へのきっかけづくり (2) 具体的取組方法について

## 3 議論した内容について

横浜市の運動に関する現状と課題について説明し、各委員の立場から、今後、「運動習慣の定着」を実現していくために、どのような具体的な取組が必要か意見交換を行いました。

論 点	主な意見等
継続して運動に取り組む方法について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動のための時間をつくるのではなく、日常生活プラスワンの取組が継続のポイントとなる。</li> <li>・モチベーションを上げることが重要で、『自分のために運動が大切である』を認識することが大切である。</li> </ul>
働き子育て世代のきっかけづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き子育て世代は、ほとんどが働いているため、平日は時間がない。休日でも平日たまった家事等で疲れてなかなか時間がない。そのため個人だけの努力では難しい。職場の協力も必要である。</li> <li>・子育て世代は、子どもをきっかけに親へアプローチする。</li> </ul>
効果的なきっかけ、仕掛けとは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『健康』が目的でない楽しいイベントから運動につなげる。 ⇒『イベントに参加した結果、運動をするきっかけになり、健康になった』が理想的</li> <li>・ウォーキングポイント事業新規参加者や継続する人が定着するためにはモチベーションが上がるための仕掛けが必要である。</li> </ul>

<p>運動習慣のための環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人だけの努力では難しいので、職場の協力も必要。</li> <li>・ <u>街中にウォーキングステーションを設置。</u>        気軽にウォーキングをするための活用と周知が課題である。        例えば：仕事帰りにウォーキングするための着替え、シャワーロッカーの利用等ができる。        着替えのレンタルや水分補給所等の役割。</li> <li>・ <u>自転車の活用。(街中で利用できる自転車の設置、ステーション)</u>        例えば：自転車を利用しやすい道路整備。        出先で、移動のために利用できる自転車とステーションの整備。</li> </ul>
---------------------	--

#### 4 今後に向けて

来年度、第2回検討部会を開催予定です。

今回、検討した点について、各団体での進捗確認や振り返りをしつつ、『運動習慣の定着』のための具体的な取組の検討を進めていきます。

#### 5 参考資料

- (1) 第2期健康横浜2-1 運動検討部会委員名簿【資料3-2】

## 第2期健康横浜21運動検討部会 委員名簿

(五十音順・敬称略)

	役職	氏名	職名
1	部会長	田中 伸一	横浜市保健活動推進委員会 会長
2		遊馬 秀樹	(株)テレビ神奈川 営業本部 事業推進室長
3		大宮 淳	健康保険組合連合会神奈川連合会 事務局長
4		金子 規子	横浜市体育協会 地域スポーツ振興部 担当課長
5		七海 雷児	横浜市PTA連絡協議会
6		長谷川 由希	(株)神奈川新聞社 クロスメディア営業局広報部 課長

## 平成 30 年度受動喫煙防止対策検討会(部会)について (報告)

### 1 趣旨

本市では、第 2 期健康横浜 2 1 (健康増進計画) に基づき、受動喫煙防止対策に取り組んでいます。2018 年(平成 30 年) 7 月に、受動喫煙防止対策の強化に向けた改正健康増進法が公布され、2019 年 1 月、7 月、2020 年 4 月と段階的に施行されます。

今後の本市における受動喫煙防止対策の取組を専門的見地から検討するため、健康横浜 2 1 推進会議の部会として、今年度より受動喫煙防止対策検討会を設置しました。

課題を整理し、受動喫煙防止対策の方針について検討を行いましたので、経過を報告します。

### 2 検討会の実施状況

#### (1) 検討会メンバー

受動喫煙防止対策検討会委員 10 名 <資料 4 - 2 参照>

#### (2) 開催日と議題内容

日程		議題内容等
第 1 回	2018 年 11 月 19 日 (月)	1 健康増進法の改正について 2 横浜市の受動喫煙防止対策の状況 3 横浜市の受動喫煙防止対策の検討の方向性 4 今後のスケジュールについて
第 2 回	2019 年 1 月 29 日 (火)	1 健康増進法改正内容 2 施設調査の結果について (速報) 3 横浜市の受動喫煙防止対策の検討の方向性 4 今後のスケジュールについて
第 3 回	2019 年 3 月 6 日 (水)	1 政省令等の状況について 2 受動喫煙防止対策検討部会 検討会報告 骨子の案 3 関係団体ヒアリングの実施及び今後のスケジュールについて

### 3 議論した内容について

#### (1) 第一回検討会

健康増進法の改正概要と本市の状況について説明し、今後「望まない受動喫煙」を実現していくために、市がどのような環境を目指していくべきか意見交換を行いました。

主な意見等	
屋内	・ベビーカーで出かける場合にテラス席は使いやすいのだが、喫煙可能になってしまうのか、客席の範囲の確認が必要。
屋外	・コンビニやファミリーレストランは子どもも行くが、入口で吸っている人が多い。 ・スクールゾーンや学校外周道路、学校に保護者が集まる際、配慮できると良い。 ・公園は吸い殻が多く、誤飲しないよう拾っている。遊具の周囲等に看板があると良い。 ・バス停や、子どもがスポーツをするグラウンド等も禁煙がよい。子どもも使うので、避けることができない。
その他	・行政機関は民間より、法改正の内容より一段厳しく行うべき。 ・加熱式たばこの取扱いも検討すべき。

## (2) 第二回検討会

施設調査の結果について(速報)について説明し、特に強化していきたい「子どもや患者」がいる屋内施設について意見交換を行いました。

主な意見	
調査結果	<ul style="list-style-type: none"><li>・調査では、「売上や利用客の減少が心配」が最も多い。</li><li>・経営は飲食店の最大の関心事なので、対策をしたら売上が上がった、他都市や企業、身近なお店の具体例等、情報を提供して不安を減らすのも重要な取組。</li></ul>
禁煙表示等	<ul style="list-style-type: none"><li>・受動喫煙をしたくない側が自らの身を守ることで考えると、禁煙かどうかはお店を選択するときに重要な情報。積極的に禁煙しているというマーク等があると良い。</li><li>・かなり多文化になっていて、言葉が通じなくてトラブルになることもある。伝える参考になるものがたくさんあると良い。</li></ul>
ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"><li>・どうしたら喫煙者の方にも、受動喫煙に関しての意識、啓発が響くのか。うまく届くコメント等があるのか、喫煙者の意見も聞いた方が良いのでは。</li><li>・小規模飲食店、生活衛生関係、小学校等子ども関係のご意見を伺うことも必要では。そういう団体とうまくコラボして、普及啓発につなげる方法もあるのでは。</li><li>・地域住民が協力して取り組まないと、なかなか学校の周りで進まない。</li></ul>

## (3) 第三回検討会

改正健康増進法の政省令について伝えるとともに、これまでの検討会から作成した検討結果骨子案、ヒアリング方法について意見交換を行いました。

主な意見	
検討会骨子案	<ul style="list-style-type: none"><li>・行政として、まず自分達が職場で受動喫煙を発生させないよう取り組んでいる姿勢を見せたほうが良い。</li><li>・ステッカー等の配布は、飲食店全店はなかなか難しい。効率的な方法を検討していくべき。</li><li>・ファミリーで参加するようなイベント、動物園、信号待ち等、子どもがたくさんいて避けられないような所は、全面禁煙が良いのでは。</li><li>・障害者も、自分で選べない、避けられないという部分は同じと思う。</li><li>・店舗の巡回等は大変なので、実効性を高めるためにどうするかを考えていくべき。</li></ul>
ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"><li>・検討会委員も、ヒアリングに参加した方が良いのでは。</li><li>・骨子案に対するご意見ではなく、検討している内容に対して、どう対応していくかという意味で聞いていくのが良い。</li><li>・20歳位から最もたばこを吸いやすくなるので、ぜひ大学にもヒアリングをすべき。</li><li>・ヒアリングは意見を聞いていく場であるが、啓発時は様々な団体も活用したほうが良い。</li></ul>

## 4 検討結果及び基本方針

受動喫煙防止対策検討会 検討結果骨子(案) <資料4-3参照>

## 5 今後のスケジュール

- 2019年3月 平成30年度第2回健康横浜21推進会議にて骨子(案)報告  
ヒアリング対象団体の選定及び調整の依頼
- 4月 対象団体へのヒアリング
- 4～5月 平成31年度第1回受動喫煙防止対策検討会
- 6月 受動喫煙防止対策検討会まとめ公表

## 6 参考資料

- (1) 受動喫煙防止対策検討会 委員名簿【資料4-2】
- (2) 受動喫煙防止対策検討会 検討結果骨子(案)【資料4-3】

## 受動喫煙防止対策検討会(部会) 委員名簿

(五十音順・敬称略)

	役 職	氏 名	職 名
1	部会長	曾根 智史	国立保健医療科学院 次長
2		坂本 徳博	公益財団法人 横浜企業経営支援財団 マネジャー (経営支援担当部長)
3		佐藤 信二	一般社団法人 横浜市歯科医師会 常務理事
4		瀬戸 卓	一般社団法人 横浜市薬剤師会 常務理事
5		中沢 明紀	禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議 会長
6		七海 雷児	横浜市PTA連絡協議会 副会長
7		松谷 英司	一般社団法人 横浜市食品衛生協会 副会長
8		丸田 昭二	神奈川県たばこ商業協同組合連合会 事務局長
9		横田 美和子	よこはま一万人子育てフォーラム
10		渡辺 豊彦	一般社団法人 横浜市医師会 常任理事

## 受動喫煙防止対策検討会 検討結果骨子(案)

- 子どもや患者等の健康を守り、望まない受動喫煙が生じないよう環境づくりを進めます。
- 行政として、率先した取組を進めます。
- 「禁煙」か「喫煙」か、確認しやすいステッカー掲示を進めるなど、環境を整備していきます。(小規模飲食店等の取組支援など)

### 1 子どもや患者等を守る取組

子どもや患者等が利用する市が設置する施設（学校、児童福祉施設、病院など）について、喫煙場所がない完全な敷地内禁煙に取り組みます。

民間施設等（保育所、学校など）についても同様の取組の協力を依頼します。また、施設の周囲や子どもがいる周囲で喫煙することがないように、配慮を求めています。

#### ○主に子どもが利用する施設：屋内及び敷地内に喫煙場所がない完全禁煙

＜第1種施設に相当する市立施設（指定管理施設を含む）＞完全禁煙の実施

- ・学校（小学校・中学校・高等学校等）
- ・児童相談所
- ・児童福祉施設（保育所、児童養護施設、児童自立支援施設等）
- ※市立学校及び市立保育所は既に、完全禁煙

＜第1種施設に相当する民間施設＞完全禁煙の依頼

- ・私立の教育施設（認定こども園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校等）
- ・児童福祉施設（保育所、乳児院、母子生活支援施設等）
- ・児童福祉法の事業の用に供する施設（地域育て支援拠点事業、小規模保育事業等）
- ・その他の教育施設（学習塾や届出のない学校等、主に未成年が利用する施設）

＜第2種施設に相当する市立施設（指定管理施設を含む）＞敷地内禁煙の依頼

- ・子どもが利用する施設

#### ○主に子どもがいる周囲：喫煙者に配慮を求める（看板設置・灰皿等を設置しない）

＜公園＞

- ・遊具等の周囲
- ・主として子どもが参加するイベント開催時

＜校庭等、子どもが屋外活動をする施設の周囲＞

- ・保育所、幼稚園、学校の敷地に隣接する外周

＜バス停・駅前広場＞

## ○主に患者が利用する施設：屋内及び敷地内に喫煙場所がない完全禁煙

＜市立施設＞ 完全禁煙の実施

- ・医療機関

＜民間施設＞ 完全禁煙の依頼

- ・医療機関

## 2 行政としての率先した取組の推進

行政は、住民の健康を守る観点から受動喫煙対策を総合的かつ効果的に推進するよう努めなければならない責務が課されています。市立施設において一層高めた対策を講じていくなど、率先した取組を進めていきます。

## 3 環境整備（小規模飲食店への取組支援）

既存特定飲食提供施設は、本市に届け出ることにより施設内での喫煙が可能となり、喫煙可能の表示をすることとなります。

これを踏まえ、飲食店を選ぶ際に禁煙かどうか確認できるよう、分かりやすく表示するステッカーの配布や禁煙店のホームページ掲載などを進めていきます。



横浜市医師会	関連計画
--------	------

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「矜りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ		健康アクション		第2期健康横浜21及びよこはま健康アクションStage2に関連する取組方針、目標を記載してください。	最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標	
■生活習慣の改善 ■生活習慣病の重症化予防		■アクション事業			・がん検診受診率のさらなる向上と精度管理の充実	
分野	健診受診啓発	検診受診啓発	たばこ			
行動目標	1年に1回特定健診を受ける	定期的ながん検診を受ける	禁煙にチャレンジ			

取組状況・振り返り(2013～2016年度)		取組と実績				最終評価	今後の方向性
中間地点		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
健康横浜	<p>①各種がん検診受診率向上と精度管理の充実のため、各種がん検診それぞれの協議会において、検診受診率・精度管理等について報告・話し合いが行われた。胃がん内視鏡検診については、精度管理向上のための読影医向けの研修会を開催した。</p> <p>②平成29年度より産婦健診の導入に向け、こども青少年局等と連携し、事業の円滑な実施のため、調整を行った。</p> <p>③全市一斉健康相談事業については、各区において年一回、各区医師会・各区福祉保健センターと協力し、区の催事にあわせて実施するなど、一般市民の健康相談事業を行った。</p> <p>④一般市民向けに、市民広報誌「みんなの健康」の発行に加え、ラジオ番組「みんなの健康ラジオ」を毎週木曜日に放送をおこなった。</p> <p>⑤糖尿病重症化予防事業に対しては、健康福祉局と協力してモデルとして実施をし、平成29年度からの全区実施に向け調整を行った。</p> <p>⑥たばこ対策事業について健康福祉局と協力し、禁煙外来医療機関名簿の作成及び禁煙外来マップを作成、一般市民向けに広報を行った。</p>	<p>取組</p> <p>①各種がん検診受診率の向上と精度管理の充実 ②各種健診事業の円滑な実施 ③平成30年7月から開始された新生児聴覚検査の円滑な実施 ④各種予防接種事業の円滑な実施 ⑤全市一斉健康相談事業実施(各区年に一度、催事にあわせて実施) ⑥市民広報誌「みんなの健康」の発行に加え、ラジオ番組「みんなの健康ラジオ」を毎週木曜日に放送 ⑦「正しい健康知識でますます元気に！」をテーマに市民公開講座を開催 ⑧糖尿病・歯周病重症化予防のための横浜市医師会歯科連携事業について、全区実施に向け各区において調整 ⑨糖尿病性腎症重症化予防事業への協力 ⑩特定健診受診率向上モデル事業への協力</p>					
	<p>実績</p> <p>①各種がん検診受診率の向上と精度管理の充実のため、医師会内ながん検診ごとの精度管理委員会を設置した。今後、精度管理の向上等に向け協議検討していく。 ②会員医療機関において各種健診事業を円滑に実施した。 ③新生児聴覚検査事業について、平成30年7月より円滑に実施できよう協力した。 ④会員医療機関において各種予防接種事業を円滑に実施した。 ⑤全市一斉健康相談事業については、各区において年一回、各区医師会・各区福祉保健センターと協力し、区の催事にあわせて実施するなど、一般市民の健康相談事業を行った。 ⑥一般市民向けに、市民広報誌「みんなの健康」の発行に加え、ラジオ番組「みんなの健康ラジオ」を毎週木曜日に放送を行った。 ⑦「正しい健康知識でますます元気に！」をテーマに市民公開講座を年2回開催し、300名の参加があった。 ⑧糖尿病・歯周病重症化予防のための横浜市医師会歯科連携事業の実施に向け、各区において調整を行った。 ⑨横浜市国民健康保険特定健診実施医療機関において糖尿病性腎症重症化予防事業への協力を行った。 ⑩3区において特定健診受診率向上モデル事業への協力を行った。</p>						
	<p>以下から選択してください。 A(目標以上に達成した) B(ほぼ目標どおり達成した) C(目標を達成できなかった)</p>	B					
達成度							

重点取組テーマ				今後のテーマ			
Action1 特定健診・がん検診、Action3 糖尿病等の重症化予防、Action9 受動喫煙防止の取組							
関連する指標							
①胃・肺・大腸がん検診40～69歳の過去1年間②乳がん検診40～69歳の過去2年間③子宮がん検診20～69歳の過去2年間④特定健診受診率(40歳以上の横浜市国民健康保険加入者) ⑤日常生活の中で受動喫煙の機会を有する者の割合⑥未成年と同居する者の喫煙率							
策定時値(2009年度)		中間評価時値(2015年度)		最終目標		健康日本21	
①胃・男性36.7%女性27.0%/肺・男性23.7%女性18.2%/大腸・男性24.4%女性18.7%	②41.5% ③39.6% ④19.7%	⑤家庭9.9%、職場14.7%、飲食店41.8%、行政機関5.6%、医療機関0.6% ⑥男性29.9%、女性10.5%	①胃・男性52.5%女性33.2%/肺・男性54.9%女性36.4%/大腸・男性49.0%女性35.1%	②45.7% ③46.1% ④21.9%	⑤家庭9.4%、職場14.9%、飲食店35.7%、行政機関6.6%、医療機関0.54% ⑥男性31.1%、女性12.2%	①～③50%④40.5%⑤家庭3%、職場0%、飲食店15%、行政機関0%、医療機関0% ⑥減少傾向	①～③50%④60%⑤家庭3%、職場0%、飲食店15%、行政機関0%、医療機関0%⑥-

横浜市食品衛生協会	関連計画
-----------	------

ライフステージ	<input type="checkbox"/> 「育ち・学びの世代」 <input type="checkbox"/> 「働き・子育て世代」 <input type="checkbox"/> 「総りの世代」
---------	--

取組テーマ	健康アクション	第2期健康横浜21及びよこはま健康アクションStage2に関連する取組方針、目標を記載してください。	最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標
<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣の改善 <input type="checkbox"/> 生活習慣病の重症化予防	<input checked="" type="checkbox"/> アクション事業		・特定健診の受診率向上の取組方法は、引き続きパンフレットの配布回数を増やし、全国平均並の受診率に届くよう頑張ります。 ・検便事業は、衛生管理計画(ハサップ)の施行により、販売数が増加し、食中毒予防の効果が得られます。 ・受動喫煙の問題は、市内主要駅だけでなく、人の集まる地区は全て喫煙禁止の働きかけを他団体と連動し進めていきます。
分野	健診受診啓発		
行動目標	1年に1回特定健診を受ける		

取組状況・振り返り(2013～2016年度)		取組と実績				最終評価	今後の方向性
中間地点		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
健康横浜	特定健診の受診率向上の取組は、神奈川県食品衛生国民健康保険組合と連動して、業種組合の会合等での議題として取り上げてもらったり、小規模な飲食店等にパンフレットの配布をして啓発している。 検便の事業はインターネットによる安価な販売が定着し始め、市内の飲食店の他、水道事業者等の他業種の方の購入も多くなり食中毒予防等の効果が期待できる。	<b>取組</b> ・特定健診の受診率向上の取組は、パンフレットを配布して啓発していますが、受診率向上になかなか結び付き、数字的にアップしているのはまだまだ感じられません。 ・検便事業はネットにより普及しつつあり、また、各区の庁舎の売店で販売したところ、販売数は増加し、食中毒予防の効果が得られています。					
		<b>実績</b> ・特定健診の受診率向上の取組については、昨年度より人間ドッグの無料券等も配布しましたが、受診率が21%と伸びず苦戦している現状です。個人事業主が、健康診断の受診が義務付けられておらず、自身の健康管理をすることまでいかないと思っています。 ・検便事業については、販売数は17年度より伸び、定着してきています。					
		B					

以下から選択してください。  
 A(目標以上に達成した)  
 B(ほぼ目標どおり達成した)  
 C(目標を達成できなかった)

重点取組テーマ					今後のテーマ	
Action1 特定健診・がん検診						
関連する指標						
特定健診受診率(40歳以上の横浜市国民健康保険加入者)						
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)				最終目標	健康日本21
19.7%	21.9%				40.5%	60.0%

(株)テレビ神奈川	関連計画
-----------	------

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「総りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ		健康アクション		第2期健康横浜21及びよこはま健康アクションStage2に関連する取組方針、目標を記載してください。	最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防		■アクション事業			報道や各種番組を通じて、健康に対する市民の関心を喚起し、必要な情報を拡散する。またイベントを通して、市民・視聴者とじかに接することで情報ニーズの把握に努める。
分野	運動(育ち・学び)	運動(働き・子育て)	運動(総り)		
行動目標	毎日楽しくからだを動かす	定期的に運動する／あと、1000歩歩く	歩く、外出する		

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組と実績				最終評価	今後の方向性
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
<p>中間地点</p> <p>①25年度から『tvkいきいきマージャン教室』を毎年実施。トータル約800名が参加した。マージャンを純粋に楽しみ、指と頭を使う「脳トレ」として活用、毎年定員を上回る応募がある。卒業生対象に大会も実施。(後援:横浜市健康福祉局)</p> <p>②開催される『横浜マラソン』に合わせ、当日の生中継(7時半)とブームアップのためのレギュラー番組を放送。市民の健康とスポーツへの関心を喚起してきた。</p> <p>③大豆100粒運動 年間 : 県内の小中学校を中心に約120校に和食の基本食材である大豆「津久井在来」を配布、栽培・加工方法指導のアドバイス、番組での紹介など、食育活動を支援。</p> <p>④「未病特別番組」の制作と放送。</p> <p>⑤「ニュース」や「ワイド番組」で、市民の関心も高い、様々な健康関連の取材を行い、放送。「健康最前線」といったレギュラーコーナーも実施。</p>	<p>取組</p> <p>①tvkいきいきマージャン教室の開催(後援:横浜市健康福祉局ほか)</p> <p>②横浜マラソンの中継と関連ブームアップ番組の放送</p> <p>③大豆100粒運動など、食育の啓発活動</p> <p>④「未病」特別番組の制作・放送</p> <p>⑤健康関連番組、コーナーの制作と放送</p>					
	<p>実績</p> <p>①tvkいきいきマージャン教室の開催(後援:横浜市健康福祉局ほか)</p> <p>②横浜マラソンの中継と関連ブームアップ番組の放送</p> <p>③大豆100粒運動など、食育の啓発活動</p> <p>④「未病」特別番組の制作・放送</p> <p>⑤健康関連番組、コーナーの制作と放送</p>					
<p>以下から選択してください。</p> <p>A(目標以上に達成した)</p> <p>B(ほぼ目標どおり達成した)</p> <p>C(目標を達成できなかった)</p>	<p>達成度</p> <p>B</p> <p>概ね達成できた</p>					

重点取組テーマ				今後のテーマ		
Action6よこはま健康スタイル						
関連する指標						
①運動やスポーツを週3日以上行う小学5年生の割合②20～64歳で1日の歩数が男性9,000歩以上、女性8,500歩以上の者の割合③20～64歳で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続④65歳以上で1日の歩数が男性7,000歩以上、女性6,000歩以上の者の割合⑤65歳以上で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続						
策定時値(2009年度)		中間評価時値(2015年度)		最終目標	健康日本21	
①男子:49.7% 女子:25.8%	②男性46.8%、女性41.7% ③全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	④男性46.9%、女性34.6% ⑤全体46.0%、男性60.9%、女性33.3%	①男子:49.7% 女子:25.8%	②男性46.8%、女性41.7% ③全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	④男性46.9%、女性34.6% ⑤全体46.0%、男性60.9%、女性33.3%	①増加傾向②男50%、女50%③全34%、男36%、女33%④男50%、女40%⑤全52%、男58%、女48%

全国健康保険協会神奈川支部	関連計画
---------------	------

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「総りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション	最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標
<b>■生活習慣の改善</b> <b>■生活習慣病の重症化予防</b>	<b>■アクション事業</b>	第2期健康横浜2-1及びよこはま健康アクション Stage2に関連する取組方針、目標を記載してください。 ・健診が健康づくりの起点であることから、健診受診率の向上に努める。 ・特定保健指導については、利用機会の拡大を図る取組を実施し保健指導率の向上に努める。 ・事業主等の健康づくりの意識の醸成を図り、さらに事業主を支援することで、従業員の健康の維持・増進に努める。 ・加入者の生活習慣病の重症化を防ぎ、医療費適正化及びQOLの維持を図るため、健診の結果、要治療域と判定されながら治療していない者に対して、確実に医療に繋げる取組を進める。 ・関係機関との連携を図り加入者の健康づくりを進めていく。
分野	健診受診啓発	
行動目標	1年に1回特定健診を受ける	

取組状況・振り返り(2013～2016年度)		取組と実績					最終評価	今後の方向性
中間地点		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度		
健康横浜	<b>1. 健診の促進</b> ・受診率は上昇しているものの全国平均と比べ低位に推移してきた。 【被保険者】[H25]47.8%、[H26]48.4%、[H27]48.7%、[H28]48.9%(全国:54.7%) 【被扶養者】[H25]14.9%、[H26]16.7%、[H27]16.6%、[H28]18.7%(全国:22.2%) ・健診受診率向上のため、対象事業所へのタイムリーな健診案内・申込書の送付、任意継続被保険者への健診案内、健診機関への受診勧奨委託などに取り組んできた。また、2年間受診したことがない被扶養者に対しては、無料集団健診を実施してきた。さらに、健診受診のインセンティブを働かせるため、健診受診者を対象とした横浜銀行「特別金利定期預金」を適用した。今後も引き続き同様の取組を継続していくことに加え、さらなる向上を検討していく。 <b>2. 特定保健指導の促進</b> ・保健師の数が不足している状況等により実績は低位に推移してきた。今後はアウトソーシングも活用し保健指導の利用拡大を推進する。 ・6か月後評価実施率(神奈川支部) 【被保険者】[H25]5.4%、[H26]6.2%、[H27]5.3%、[H28]3.8% 【被扶養者】[H25]3.0%、[H26]2.8%、[H27]5.2%、[H28]3.6% <b>3. 事業主等の健康づくり意識の醸成。</b> ・「かながわ健康企業宣言」の参加企業に対し、健康づくりサポートを実施するなどし、事業主を支援することにより従業員の健康維持・増進に努めてきた。今後は参加企業を増やし事業を推進していく。 ・「データヘルズ計画」に基づき、事業所の禁煙に関する意識の醸成を図ってきた。 <b>4. 重症化予防対策</b> ・生活習慣病の重症化を防ぎ、医療費適正化及びQOLの維持を図るため、健診の結果、要治療と判定されながら治療していない加入者に対して受診を勧奨し、確実に医療につなげる取組を実施した。今後は横浜市と同内容の糖尿病腎症にかかる重症化予防実施事業を行う予定。 <b>5. その他</b> ・県歯科医師会、県薬剤師会との協定に基づいた健康づくりを推進した。 ・健康保険委員会を対象とした研修を協定4市(横浜市、川崎市、相模原市、藤沢市)と実施した。 ・「ピンクリボンかながわ」との共催による乳がん撲滅の啓発事業を実施した。	<b>取組</b> ○健診の促進 (被保険者) ・受診率向上のため、タイムリーな受診勧奨を実施する。特に加入事業所数が増加していることに着目し、新規適用事業所に対する受診勧奨を積極的に実施する。 ・事業所健診データの取得勧奨を関係機関と連携して実施する。 (被扶養者) ・未受診者対策として協会主催の自己負担無料の集団健診(会場健診)を実施する。 ○保健指導の促進 ・被保険者の保健指導については、健診当日保健指導が可能な健診実施機関を確保し保健指導の利用拡大を推進する。 ・被扶養者の保健指導についてはセミナー形式の特定保健指導の展開を図る。 ○事業主等の健康づくり意識の醸成 ・「かながわ健康企業宣言」事業所数の更なる拡大とともに、宣言事業所に対するフォローアップの強化を図る。 ・事業所カルテを活用し、健康度の改善度合いをデータとして提供し、事業所の健康経営に対する取組意欲の向上を図る。 ○重症化予防対策 ・健診結果で要治療と判定されながら医療機関を受診していない者に対し受診勧奨を実施する。 ・糖尿病患者にかかりつけ医と連携し、糖尿病性腎症重症化予防指導プログラムを実施する。 ○その他 ・県歯科医師会、県薬剤師会との協定に基づいた健康づくりを推進する。 ・健康保険委員会を対象とした研修を横浜市と実施する。 ・「ピンクリボンかながわ」との共催による乳がん撲滅の啓発事業を実施する。						
		<b>実績</b> ○健診の促進 (被保険者) ・新規に加入した事業所への文書(9,637事業所)及び電話(3,709事業所)による受診勧奨を実施(1月末) ・神奈川労働局長名の協力依頼文書を送付(6月:324事業所・1月:326事業所)し事業者健診データの取得勧奨を実施。 (被扶養者) ・未受診者対策として協会主催の自己負担無料集団健診(会場健診)を(1～3月、38会場)で実施予定。 ・昨年、一昨年に上記集団健診を実施した人を対象にオプション検査等を含めた集団健診(有料)を実施。(12～1月、23会場、2,698人受診) ・被保険者と同様の生活習慣病予防健診を提供(110機関)し、受診件数が拡大(平成30年9月末時点 4,927件)。 ○保健指導の促進 ・健診当日に保健指導ができる実施機関(24機関)を確保し、保健指導の利用件数が増加 ・委託によるセミナー形式の特定保健指導を4地域5会場(参加者224名)で実施。 ○事業主等の健康づくり意識の醸成 ・かながわ健康企業宣言事業所(県内192事業所/平成31年2月末時点)に対し、職場の健康づくりに対する支援実施(25事業所から申込み有) ・事業所訪問および取組内容の聞き取りのため、事業所訪問(44社)を実施。好事例等の情報を他の事業所へ展開するため、紹介ハンドレットを作成。 ○重症化予防対策 ・生活習慣病予防健診受診者のうち血圧・血糖に関し検査値が要治療域と判断されながら医療機関を受診していない加入者への受診勧奨文書を送付(一次勧奨)。6,618件(平成30年4月～平成31年2月) ・一次勧奨対象者のうち、より重症域と判断される加入者に医療機関への受診勧奨を電話・文書で実施(二次勧奨)。2,016件(平成30年4月～31年2月) ・糖尿病患者にかかりつけ医と連携しながら、糖尿病性腎症重症化予防指導プログラムを実施して患者が自分で体調管理できるようプログラムを委託で提供実施。27名申込み/18名面談(うち途中中断9名)						
		<b>達成度</b> B						

以下から選択してください。  
 A(目標以上に達成した)  
 B(ほぼ目標どおり達成した)  
 C(目標を達成できなかった)

重点取組テーマ					今後のテーマ		
Action1特定健診・がん検診、Action3糖尿病等の重症化予防、Action10データ活用							
関連する指標							
特定健診受診率(40歳以上の横浜市国民健康保険加入者)							
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)				最終目標	健康日本21	
19.7%	21.9%				40.5%	60.0%	

健康保険組合連合会神奈川連合会	関連計画
-----------------	------

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション	第2期健康横浜21及びよこはま健康アクションStage2に関連する取組方針、目標を記載してください。	最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業		1. 特定健診・特定保健指導の国の目標達成。 2. かながわ健康企業宣言事業の拡大。 3. 共同保健事業の拡大。
分野	健診受診啓発		
行動目標	1年に1回特定健診を受ける		

取組状況・振り返り(2013～2016年度)		取組と実績				最終評価	今後の方向性
中間地点		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
健康横浜	<p>①毎月第4土曜日、100キロウォーク(1年間で100キロ歩く)を実施しており、25年度から28年度の4年間で48回実施、計16,702名(年間4千人以上、1回平均348名)が参加した。このイベントもすっかり定着し毎回盛大に実施しているが、60歳代以降の参加者が多く、若い世代の参加、子供も楽しめる(ファミリーコースの併設等)企画も必要と考えられる。</p> <p>②特定保健指導促進のため、特定保健指導機関として登録している。要請のある健保組合に対し、共同設置保健師が指導を実施している。また、指導実践者のスキルアップ勉強会や、40歳未満の健康教育、ポピュレーションアプローチとして各種セミナーの実施にも取り組んでいる。</p> <p>③講習会については、年2回(健康増進テーマ:10月、疾病予防テーマ:3月)定着して実施してきた。4年間で健康増進テーマは計282名(1回平均70名)、疾病予防テーマは計324名(1回平均81名)と、毎回関心は高く今後も継続していきたい。</p> <p>④健保組合からの要請による講話等は、共同保健師が組合に出向いて要請テーマ(睡眠・熱中症・食生活改善・メンタルヘルス等)の講話やセミナーを実施、年々要請が増加しており今後も推進していきたい。</p>	<p>取組</p> <p>①100キロウォークは定着し毎月300名前後が参加している。今年度は通常コース(9キロ)の他に、5キロコースも併設した。</p> <p>②特定保健指導を保健師と外部委託により積極的に実施し、対前年度3割増の見込み。また、ダイエットプログラムの活用、スポーツクラブ利用による特定保健指導モデル実施を行っている。</p> <p>③データヘルス計画の側面支援として、保健事業の勉強会を4回(基礎・初級・中級・上級)実施。</p> <p>④被扶養者の特定健診受診率向上を目的として、3年未受診者を対象にハガキによる受診勧奨を行う。(10月実施予定)</p> <p>⑤事業主の健康づくり意識向上のため、「かながわ健康企業宣言」の宣言企業・認定企業を大幅に増やした。また、事業主とのコラボヘルス支援として、「歯科予防」と「禁煙推進」の講習会を実施。</p>					
	<p>実績</p> <p>①100キロウォークは参加者月平均275名で年々減少傾向となっている。</p> <p>②連合会実施の特定保健指導実績は376名で、前年度333名の13%増。ダイエットプログラムは243名の参加で減量者率72%。</p> <p>③保健事業勉強会は4回予定通り実施。(基礎35名、初級19名、中級15名、上級50名)</p> <p>④被扶養者への受診勧奨ハガキは希望した3健保3,800枚発送。他の健保は独自に実施。</p> <p>⑤かながわ優良企業認定は38法人、健康経営優良法人2019は34法人が認定された。歯科予防は講習会に27健保出席、トライアル参加182名。禁煙対策は講習会に35健保出席、42名がトライアル参加。</p>						
<p>以下から選択してください。 A(目標以上に達成した) B(ほぼ目標どおり達成した) C(目標を達成できなかった)</p>		達成度	B				

重点取組テーマ					今後のテーマ	
Action1 特定健診・がん検診、Action3 糖尿病等の重症化予防						
関連する指標						
特定健診受診率(40歳以上の横浜市国民健康保険加入者)						
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)				最終目標	健康日本21
19.7%	21.9%				40.5%	60.0%

横浜市体育協会	関連計画
---------	------

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「総りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ		健康アクション		第2期健康横浜21及びよこはま健康アクションStage2に関連する取組方針、目標を記載してください。	最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標	
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防		■アクション事業			■市民参加型の事業において、加盟団体や当協会内部の連携を強化し、参加機会の拡大を図ります。 ■当協会が実施する教室やイベント等を通じて、スポーツに触れ、参加する機会の充実を図ります。 ■アウトリーチ事業等の実施エリアを拡充させ、身近な地域におけるスポーツ機会の充実を図ります。	
分野	運動(育ち・学び)	運動(働き・子育て)	運動(総り)			
行動目標	毎日楽しくからだを動かす	定期的に運動する／あと、1000歩歩く	歩く、外出する			

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組と実績				最終評価	今後の方向性
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
<p>中間地点</p> <p>健康横浜</p> <p>・ウォーキングイベントは、25年度から毎年開催し、4年間で17,240人が参加。毎年参加者数は増加しており、平成26年度からは、毎年3,000人程度参加人数が増えている。また、独自のウォーキングコースを設置し、ウォーキングステーションとしての役割を担った。(16施設)</p> <p>・横浜マラソン大会のチャレンジ枠事業として、3施設は区と共催として事業を実施。その他の13施設は、栄養講座や大会に向けたランニング講座などをプログラムに取り入れ、ランニング推進の事業を実施した。(16施設)</p> <p>・子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象に各種スポーツ教室を実施した。平成25年度は1,005,000人の参加者数であったが、平成27年度には1,107,000人の参加者で102,000人増えた。年々参加者数が増加している傾向であり、健康に対する関心が高まっていると考えられる。(16施設)</p> <p>・保育園や子ども体力向上事業では、保育園長会や小体研会(小学校)などに積極的にPRを実施し、プログラムに関心を持つ、園や学校が増えている。(18区)</p> <p>・医師会と連携をして、医事相談や野球肘事業を継続的に実施をした。平成29年度も実施している。</p>	<p>取組</p> <p>■各区スポーツセンター※における、ウォーキングイベントの実施およびステーション機能の拡充。 ■2018年度横浜マラソンに向けた「横浜マラソンチャレンジ枠」事業を各区スポーツセンター※で実施。 ■子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした各種スポーツ教室の開催。 ■保育園や小学校に向けた子ども体力向上事業プログラム(リズムジャンプや身近なものを使った運動遊び等)の提案と派遣指導等の実施。 ■各区スポーツセンター※における医事相談(内科・整形)の開催。 ■より良い歩行に向けた姿勢測定会や姿勢デザイン教室を各区スポーツセンター※で実施。 ■ヨコハマさわやかスポーツ普及事業、横浜市スポーツ人材活用システムを通じた運動支援や、区体育協会・総合型地域スポーツクラブの活動支援。 ※青葉・港北除く16区</p>					
	<p>実績</p> <p>■各区※スポーツセンターにおいて、親子や防災、商店街といったテーマ別ウォーキングを企画、実施した。また、ウォーキングステーションとしてボールの貸出やストレッチ体操の紹介などを行った。 ■横浜マラソンチャレンジ枠として、各区※スポーツセンターにおいて栄養講座や足型測定、ストレッチ体操の講座を行った。 ■幅広い世代に向け、託児サービスや文化教室の開催など、より参加しやすく様々な興味に応える教室を実施した結果、約1,095,000人の参加があった。 ■保育園においては、はつらつキッズ事業として様々な運動遊びを行い、約5,800人の園児が参加した。また、リズムジャンプを活用した事業には約20,000人の児童が参加した。 ■医事相談は各区※スポーツセンターにおいて、内科・整形外科合わせて37回開催し、約300人が参加した。 ■各区※スポーツセンターで姿勢測定会を行い、約600人の計測と、より良い歩行に向けたアドバイスを行った。 ※青葉・港北を除く ■18区全てに連携担当者を配置し、ヨコハマさわやかスポーツ普及事業を始めた地域事業の支援を行い、人材活用システム登録者による活動参加者数は、約650,000人となった。</p>					
<p>以下から選択してください。 A(目標以上に達成した) B(ほぼ目標どおり達成した) C(目標を達成できなかった)</p>	B					

重点取組テーマ				今後のテーマ		
Action6よこはま健康スタイル、Action8ロコモ/フレイル・オーラルフレイル						
関連する指標						
①運動やスポーツを週3日以上行う小学5年生の割合②20～64歳で1日の歩数が男性9,000歩以上、女性8,500歩以上の者の割合③20～64歳で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続 ④65歳以上で1日の歩数が男性7,000歩以上、女性6,000歩以上の者の割合⑤65歳以上で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続						
策定時値(2009年度)		中間評価時値(2015年度)		最終目標	健康日本21	
①男子:49.7% 女子:25.8%	②男性46.8%、女性41.7% ③全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	④男性46.9%、女性34.6% ⑤全体46.0%、男性60.9%、女性33.3%	①男子:49.7% 女子:25.8%	②男性46.8%、女性41.7% ③全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	④男性46.9%、女性34.6% ⑤全体46.0%、男性60.9%、女性33.3%	①増加傾向②男50%、女50%③全34%、男36%、女33%④男50%、女40%⑤全52%、男58%、女48%

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「総りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション	
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業	
分野	食生活	
行動目標	バランスよく食べる 野菜たっぷり、塩分少なめ	

第2期健康横浜21及びよこはま健康アクションStage2に関連する取組方針、目標を記載してください。

最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「育ち・学び(若者)世代」に朝食欠食の改善・食事バランスの大切さを知って貰う。</li> <li>・「働き・子育て世代」に食生活の改善・生活習慣病予防の大切さを学んで貰う。</li> <li>・「総りの世代」に低栄養の予防・第3の居場所であるシニアカフェの確立</li> <li>・全世代に「野菜摂取量の増加」と「減塩」を推進する。</li> </ul>

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組と実績				最終評価	今後の方向性
中間地点	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
<p style="text-align: center; font-weight: bold;">健康横浜</p> <p>・25年度から第2期健康横浜21の推進に即した健康づくり講座を世代別対象に計854回開催した。アンケート結果などから普段の食習慣の振り返りができた。生活習慣を変えたいきっかけとなった等の意見が見られ一定の成果を上げた。</p> <p>・おやこの食育教室・生活習慣病予防講座、男性のための料理教室等、内容・対象者を特定した講座を開催する中で、若者の朝食欠食率の改善を重点に置いた活動も行っている。</p> <p>・区民まつり・小・中学校・子育てグループ・地域ケアプラザ・地区センター等の食育啓発普及活動に協力し地域に根差した活動を推進した。</p> <p>・上記の事業やイベントの参加者及び家庭訪問により味噌汁塩分濃度チェック及び対象別啓発チラシ配布を継続的にしている。</p> <p>・ウォーキング活動については、各区ごとに季節にあったコースや回数を設定し会員・地域住民とともに楽しい活動を常時展開している。</p>	<p style="text-align: center; font-weight: bold;">取組</p> <p>(1)横浜市委託事業の世代別対象に「育ち・学びの世代」・「働き・子育て世代」・「総りの世代」の各区ごとの特性を生かした健康づくり講座を開催</p> <p>(2)世代別に取り組み生活習慣病予防のためのスキルアップ事業として「若者世代」には食事の楽しさを、「働き世代」には食習慣の見直しを！「高齢世代」には第3の居場所を！を目標に食生活の問題点の改善を図る。</p> <p>(3)「おやこの食育教室」・「生涯骨太クッキング」・「男性のための料理教室」・「やさしい在宅介護食教室」などの活動も引き続き展開</p> <p>(4)私たち自身も学びながら常に新しい感覚を持って、区民まつり・子育てグループ・地域ケアプラザ等の食育啓発普及活動に協力し、地域に根差した食生活の改善に取り組み</p> <p>(5)ウォーキング活動は、各区ごとに季節にあったコースや回数を設定し会員・地域住民とともに楽しい活動を展開</p>					
	<p style="text-align: center; font-weight: bold;">実績</p> <p>(1)横浜市委託事業各世代ごとの健康づくり講座 計216回開催</p> <p>(2)世代別に取り組み生活習慣病予防のためのスキルアップ事業 計37回開催 若者世代の食生活の実態の一部を知ることが出来、今後の活動の方向性が見えた。</p> <p>(3)「おやこの食育教室」をはじめとする日本食生活協会事業を各区ごとの特性を生かした事業を開催した。幼いころからの食育の重要性を実感し、今後の活動に生かしたい。</p> <p>(4)私たち自身も常に新しい感覚を持って、区民まつり・健康フェア・地域ケアプラザに協力するなど、地域に根差したきめ細かい食育活動を行なった。</p> <p>(5)ウォーキング活動は各区ごとに会員・地域住民とともに楽しさを重点に開催した。</p>					
	B					
	達成度					

以下から選択してください。  
 A(目標以上に達成した)  
 B(ほぼ目標どおり達成した)  
 C(目標を達成できなかった)

重点取組テーマ				今後のテーマ	
Action4子どもの頃からの健康づくり					
関連する指標					
①朝食を食べている小中学生の割合②1日の野菜摂取量・食塩摂取量/主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の割合 ③60歳代でなんでも噛んで食べることができる者の割合					
策定時値(2009年度)		中間評価時値(2015年度)		最終目標	健康日本21
①94% ②271g、10.7g/ 男性40.6%女性42.1%	③67.7%	①93.3% ②287g、10.3g/ 男性41.3%女性44.5%	③76.9%	①100%②350g・8g/80% ③80%	①100%②350g・8g/80% ③80%

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」 ■「暮りの世代」
---------	-------------	----------------------

取組テーマ	健康アクション	最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標
<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣の改善 <input type="checkbox"/> 生活習慣病の重症化予防	■アクション事業	①特定健診受診率向上、特定保健指導実施率向上、糖尿病重症化予防に向け、在宅保健師の派遣、保険者向け研修会、広報事業を実施する。 ②保険者等(後期高齢者医療広域連合を含む)が策定したデータヘルス計画の効果的かつ効率的な推進に向け、有識者で構成する「保健事業支援評価委員会」による評価・助言の実施や、個別保健事業に必要となるレセプトデータと健診データを活用した「KDBシステム」を保険者に提供する。 ③保険者が実施する「健康まつり」等の健康づくり事業に対して、必要(人・物)な支援を行う。
分野	健診受診啓発	
行動目標	1年に1回特定健診を受ける	

第2期健康横浜21及びよこはま健康アクションStage 2に関連する取組方針、目標を記載してください。

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組と実績				最終評価	今後の方向性
中間地点	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
<p>①国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県保健福祉事務所での研修に、国保と衛生の両担当が参加することで、連携した計画策定が計られ、進捗管理表や事業別ワークシートの作成・活用により、地域特性が似ている市町村同士が研修に参加することで、共通課題への対策検討に繋がることができたので、政令市、国保組合、広域連合についても研修会の調整を行っている。</li> <li>・KDBIについては、平成26年1月から県内全保険者に運用を開始して以来、データ活用のための集合研修や保険者訪問等の端末操作研修等を実施しており、平成27年度からは独自の拡張ツールの「保健事業支援システム」を配布し更なる利便性向上に努めた。平成28年度は、「データヘルス計画」策定に活用いただくデータの抽出・加工など提供の支援をおこなっている。また、後期高齢者については後期ユーザーIDを保険者に配布し、後期データの保健事業への利活用も進めている。</li> </ul> <p>②特定健診受診促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未受診者受診勧奨等の保険者支援事業としては、平成25年度から28年度で延べ35保険者が活用しており、電話での受診勧奨後に健診受診につながった割合は、27.6%(25～27年度平均)と高い、日中の活動で不在が多いが、留守電メッセージを残した効果もみられている。引き続き、活用保険者の取り組みを情報共有していき、受診率向上の支援をしていく。</li> </ul> <p>③健康づくり促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康パンフレットの作成や配布、神奈川県在宅保健師会「いちよの会」の保健師派遣など、保険者出席の会議で未活用保険者への周知を行い保険者の健康づくり促進に向けた取組の強化を行っている。</li> </ul>	<p>取組</p> <p>①国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改正国保法の施行により、新たに国保保険者となった神奈川県や県保健福祉事務所と連携を図り、保険者等(後期高齢者医療広域連合を含む)のデータヘルス計画がPDC Aサイクルにより効果的かつ効率的に推進できるよう、有識者で組織する保健事業支援・評価委員会により個別に計画の評価・助言を行う。</li> <li>・レセプト・健診データを活用した「KDBシステム」が、今年度リリースした新機能(個別保健事業への対応)について、今後(来年度から)、保険者等が有効活用してもらうことを目的とした研修会を実施する。また、第二期データヘルス計画策定等にかかる各種データの作成についても引き続き支援を行う。</li> </ul> <p>②特定健診受診促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅保健師の派遣事業として、今年度から特定健診の受診勧奨だけでなく特定保健指導の利用勧奨も行い、引き続き受診率向上・実施率向上の支援を行う。</li> <li>・広報事業として、新聞広告・ラジオCMを使った受診勧奨や健康まつり等で使用する「ポケットティッシュ」を作成する。また、本会が事務局を務める保険者協議会で「健診受診率向上ポスター」を作成し、県・都市医師会を通じて県内医療機関に配布する。</li> </ul> <p>③健康づくり促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康増進に関するパンフレットの作成・配布や、保険者が実施する健康まつり等に対して、在宅保健師の派遣や健康測定機器の貸し出しを行い、保険者の健康づくり促進に向けた取組を支援する。</li> </ul>	<p>実績</p> <p>① 国保保険者及び後期高齢者医療広域連合におけるデータヘルス推進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市の「第2期データヘルス計画」について、有識者で構成する「保健事業支援・評価委員会」や政令市を対象としたブロック別研修会により、特定健診未受診者への勧奨方法や糖尿病の重症化予防等、効果的かつ効率的な事業の推進に向けた、事業の評価や助言を行った。</li> <li>・レセプトや健診データを活用した「KDBシステム」については、市町村職員・保健師を対象とした研修会を開催し、被保険者に対する個別の保健事業に活用するために新たに実装された機能について、具体的な内容や操作方法について説明し、この新規機能を有効活用できるよう周知を図った。</li> </ul> <p>② 特定健診受診促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅保健師派遣事業として、未受診者への受診勧奨をサポートするため、瀬谷区に対して、在宅保健師1名を13日間派遣し、電話による受診勧奨を行った。</li> <li>・広報事業として、新聞広告を4回、ラジオCMをAM放送で34回、FM放送で32回実施した。また、健康まつり等で使用する「ポケットティッシュ」を作成し、本庁に9,000個と18区へ65,500個、を配布した。</li> <li>・本会と神奈川県が共同事務局を務める「保険者協議会」において、「特定健診受診率普及啓発ポスター」を作成し、横浜市内21ヶ所の都市医師会へ約2,400枚を配布した。</li> </ul> <p>③ 健康づくり促進への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康増進に関するパンフレットとして、運動をテーマに作成し、本庁と保土ヶ谷区へ合計1,500部配布した。</li> <li>・横浜市の健康まつり等への支援として、8区に対して27回の健康測定機器の貸し出しや、10区に対して12回の在宅保健師を派遣した。</li> </ul>	<p>達成度</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>			

以下から選択してください。  
 A( 目標以上に達成した)  
 B( ほぼ目標どおり達成した)  
 C( 目標を達成できなかった)

重点取組テーマ				今後のテーマ	
Action1特定健診・がん検診、Action10データ活用					
関連する指標					
特定健診受診率(40歳以上の横浜市国民健康保険加入者)					
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)			最終目標	健康日本21
19.7%	21.9%			40.5%	60.0%



横浜市薬剤師会	関連計画
---------	------

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション	第2期健康横浜2-1及びよこはま健康アクションStage2に関連する取組方針、目標を記載してください。	最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業		
分野	たばこ		
行動目標	禁煙にチャレンジ		

横浜市禁煙支援薬局数を200薬局へ増加する。  
 ・学校薬剤師による未成年の喫煙防止教育の推進  
 ・禁煙外来医療機関との連携を深め、禁煙外来受診率を増加させる。  
 ・薬草探索健康ウォーキングの参加人数を増やし、健康づくりを実践するきっかけを提供する。

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組と実績				最終評価	今後の方向性
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
<p>中間地点</p> <p>健康横浜</p> <p>①横浜市禁煙支援薬局事業を平成22年度より開始し、延2200名の相談が有りましたが、ここ数年は100名/年の相談に留まっています。支援登録薬局は28年度155店舗。今後、禁煙相談やOTC医薬品の禁煙補助剤の販売などセルフメディケーションをサポートする役割を担っていきます。また、COPDの認知度を高める啓発についても取り組んでいきます。</p> <p>②薬草探索健康ウォーキング事業を平成27年度から2回開催して、計100名が参加。毎回参加希望者が多いのですが、80代以降もいることから安全性から定員50名で実施しています。</p> <p>③「薬物乱用防止キャンペーン」事業の啓発イベント会場において、禁煙支援相談や肺年齢測定等の実施(28年度52件)</p> <p>④学校薬剤師による小学校・中学校での薬物乱用防止教育やお薬適正使用教育の実施。「薬物乱用防止教育横浜型プログラム」を教育委員会と共同作成し学校での授業を行いました。</p> <p>⑤各区の健康まつりや区民まつりにおいてお薬相談や禁煙支援相談等の実施(27年度:お薬の相談は18区で開催、禁煙相談は9区鶴見、中、南、旭、磯子、金沢、青葉、戸塚、泉区、28年度:お薬の相談は17区で開催(泉区以外)、禁煙相談は6区神奈川、南、旭、磯子、戸塚、瀬谷区で開催)</p> <p>⑥区福祉保健センターや横浜シニア大学と連携し、高齢者のお薬適正使用についての講演を実施。(各18区で受講者や関係者に高齢者のお薬適正使用の資料を835部配布)</p> <p>⑦「よこはまウォーキングポイント」への参加と広報(会報などに参加と市民に向けての資料を薬局内で掲示)</p>	<p>取組</p> <p>1)横浜市禁煙支援事業研修会の開催 研修会参加人数:169名 禁煙支援薬局認定数:144薬局</p> <p>2)各区健康まつりの薬剤師会ブースにて、禁煙相談、一酸化炭素濃度測定、リーフレットの配布</p> <p>3)学校薬剤師による小・中学生の飲酒、喫煙防止及び、薬物乱用防止教室の実施</p> <p>4)各区行政が実施している禁煙支援事業の広報、チラシの配布</p> <p>5)薬草探索健康ウォーキング横浜の開催</p>					
<p>以下から選択してください。            A(目標以上に達成した)            B(ほぼ目標どおり達成した)            C(目標を達成できなかった)</p>	<p>実績</p> <p>1)横浜市禁煙支援事業研修会の開催 研修会参加人数:169名 禁煙支援薬局認定数:144薬局 相談報告件数:286件</p> <p>2)各区健康まつりの活動 港北・緑・戸塚・栄・瀬谷・西・南・旭区の8区にて、禁煙相談、肺年齢相談、呼気CO濃度測定、血管年齢測定を実施 その他の区においても、おくすり相談、リーフレット配布、セルフメディケーションの推進活動において実施</p> <p>3)学校薬剤師による小・中学生の飲酒、喫煙防止及び、薬物乱用防止教室の実施 小中学校全511校のうち、約180校で講演を実施した。</p> <p>4)全18区薬剤師会へ今後の活動資料として行政が行う禁煙支援事業を情報提供した。</p> <p>5)薬草探索健康ウォーキング横浜の開催 2018年11月3日 戸塚区舞岡公園にて開催 参加者48名</p>					
	B					

重点取組テーマ	今後のテーマ		
Action9受動喫煙防止の取組			
関連する指標			
①成人の喫煙率②COPDの認知率③日常生活の中で受動喫煙の機会を有する者の割合④未成年と同居する者の喫煙率			
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)	最終目標	健康日本21
①20.0% ②男性33.3% 女性41.0%	③家庭9.9%、職場14.7%、飲食店41.8%、行政機関5.6%、医療機関0.6%	④男性29.9%、女性10.5%	
	①19.7% ②男性33.8% 女性38.9%	③家庭9.4%、職場14.9%、飲食店35.7%、行政機関6.6%、医療機関0.54%	④男性31.1%、女性12.2%
		①12%②80%③家庭9.4%、職場14.9%、飲食店35.7%、行政機関6.6%、医療機関0.54%	④男性31.1%、女性12.2%

横浜市保健活動推進員	関連計画
------------	------

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ		健康アクション		最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標
<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣の改善 <input type="checkbox"/> 生活習慣病の重症化予防		■アクション事業		第2期健康横浜21及びよこはま健康アクションStage2に関連する取組方針、目標を記載してください。  第2期健康横浜21の目標に向けて健康福祉局、区福祉保健センターと連携を密にしながら、年度ごとに活動の振り返りと年度目標進捗管理を行い市の目標達成をはかる。
分野	運動	検診受診啓発	健診受診啓発	
行動目標	あと1,000歩歩く/定期的に運動する	定期的にがん検診を受ける	1年に1回特定健診を受ける	

取組状況・振り返り(2013～2016年度)		取組と実績				最終評価	今後の方向性
中間地点		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
健康横浜	重点取組テーマ「地域の健康づくり」 ① 横浜健康スタイル事業への協力と推進 ＊よこはまウォーキングポイント事業 ・26年～27年は保健活動推進員の事業への積極的参加に力を入れ、その後も改選ごとに新しく推進員になられた方の参加促進に力を入れ、29年前半には殆どの推進員が事業に参加している。また併せて各種イベントや町内会自治会活動や地区活動の中で推進員が地域住民に積極的に働きかけ、参加促進をはかった。28年以降は、歩くことが少ない高齢者にも働きかけ、歩くことの楽しさを実感してもらい事業に参加していただけるよう力を入れている。 ＊よこはま健康スタンプラリーについては、保健活動推進員が主催する健康づくり活動団体がこの事業に加わりそこに参加する方にラリーの趣旨を説明しハガキ投函につなげた。 ●当初の目標値はほぼ達成したが、今後は市民の中で事業に参加している人とそうでない人で、健康格差を生じないようどのような方策を講じていくか求められている。	<b>取組</b> 活動テーマ 【主要テーマ】 「地域の健康づくり」 【サブテーマ】 ・特定健診・がん検診の普及啓発【重点取組テーマ】 ・ウォーキングポイント事業とスタンプラリー事業への協力と推進 ・禁煙・分煙・受動喫煙防止の推進 ・ロコモ対策の推進 ・認知症について(理解と予防)  ＊今年度は5つの取組の中で、特定健診・がん検診の啓発活動力を入れ、地域住民に対し、様々な機会を通して普及啓発活動を行い、健診率向上につなげていく。					
	② 禁煙・分煙・受動喫煙防止の推進 ＊各種イベントにおける受動喫煙防止啓発チラシの配布 ＊小学校における出前喫煙防止講座の開催 ●神奈川県喫煙防止条例が出来るまでは、区内の飲食店を訪問しての実態調査を行ってきた。この条例施行により市内も禁煙・分煙・受動喫煙防止の推進が図られるようになってきた。今後は喫煙者を減らすために行政と連携してタバコを吸わない人を増やす支援啓発活動が必要である。	<b>実績</b> 今年度は5つのサブテーマを設けたが、その中で特に特定健診・がん検診の啓発活動に力を入れた。 (1) 連合町内会や町内会、自治会役員会において「今年から特定健診の受診料が無料になった」ことの周知と受診啓発の協力を要請した。 (2) 区民祭りや地区ごとのイベントでは「健康測定会」などを通じて幟を掲げたり、案内ちらしを配布し受診を訴えた。 (3) 駅前やスーパーの前などでポケットティッシュや花の種を配り特定健診やがん検診の啓発活動を行った。					
	③ 特定健診、がん検診の普及啓発 ＊「市、区の保健活動推進会だより」に特定健診、がん検診の記事を掲載し、市民に読んでもらうことで普及啓発をはかった。 ＊各種イベントや健康測定会を開催し、その中でマンモモデルを用いて乳がん自己触診体験を通じた啓発を実施。さらに事業者と連携した特定健診の受診勧奨や各種測定の実施。 ●それでも横浜市の受診率は全国でも最低レベルにあり、さらなる方策を考えていきたい。 ④ ロコモ対策の推進 ＊地域のイベントや健康教室などでロコモ測定機器を活用したロコモ啓発を実施し、併せてロコモ予防体操を推進。 ＊一部の区では行政と連携し「乳幼児健診時に福祉保健センターに来られる母親を対象に立上がりチェックなどのロコモ度チェックを実施。 ●ロコモというとすぐ高齢者というところが頭に浮かぶが、若い世代の働きかけがより大切である。今後はこれらの世代に対する啓蒙や測定機会を積極的に設ける必要がある。 ⑤ 認知症の理解と予防 ＊元気づくりステーション事業や筋トレグループとの連携など日々の活動を通じた認知症の理解や予防啓発を行った ●今後は認知症にならないための医学的知見にもとづいた予防活動に力を入れていきたい。	<b>達成度</b> B					
以下から選択してください。 A(目標以上に達成した) B(ほぼ目標どおり達成した) C(目標を達成できなかった)							

重点取組テーマ				今後のテーマ			
Action1 特定健診・がん検診、Action6よこはま健康スタイル、Action7地域活動を通した健康づくり、Action8ロコモ予防/フレイル・オーラルフレイル							
関連する指標							
①特定健診受診率(40歳以上の横浜市国民健康保険加入者)②20～64歳で1日の歩数が男性9,000歩以上、女性8,500歩以上の者の割合③20～64歳で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続							
策定時値(2009年度)		中間評価時値(2015年度)		最終目標		健康日本21	
①19.7%	②男性46.8%、女性41.7%	③全体24.6%、男性27.1%、女性21.7%	①21.9%	②男性41.7%、女性30.8%	③全体24.3%、男性26.7%、女性21.4%	①40.5%②50%③全体34%、男性35%、女性33%	①60%②歩数の平均が男性9,000歩、女性8,500歩③全体34%、男性36%、女性33%

禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議	関連計画
-----------------------	------

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「総りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション	
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業	
分野	たばこ	
行動目標	禁煙にチャレンジ	

第2期健康横浜21及びよこはま健康アクションStage2に関連する取組方針、目標を記載してください。

最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標
喫煙が、がん、循環器疾患、呼吸器疾患などの生活習慣病を惹き起こす最大の危険因子であることから、禁煙・受動喫煙防止活動を推進することにより、育ち・学びの世代の「受動喫煙を避ける」働き・子育て世代及び総りの世代の「禁煙にチャレンジ」といった目標を達成し、健康長寿の延伸に貢献する。

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組と実績				最終評価	今後の方向性
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
<p>中間地点</p> <p>健康横浜</p> <p>・25年度から28年度の4年間で、本会会員が、禁煙・受動喫煙防止に関して講演・研修会を実施したは、学校・地域・産業保健の分野をあわせると約440回を数える。学校での講演に関しては、学校長・養護教諭の理解による温度差があるようだ。産業保健分野では中小規模の企業の従業員の喫煙率はまだ高い、今後関係団体等と協力し、働きかけを進めていく必要がある。</p> <p>・イベント等で禁煙相談を実施しているが、以前と比較し、喫煙者が減少していることを実感する。今後も引き続き、関係団体と連携を深めて地道に、継続的に活動を展開していく。</p> <p>・平成27年5月31日の世界禁煙デーに神奈川新聞の1面全面意見広告を出したが、毎年実施することは困難である。今後、禁煙・受動喫煙防止についての広報、啓発活動をどのように展開していくか、検討していく必要がある。</p>	<p>取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界禁煙デーに呼応した講演会の開催</li> <li>健康増進法一部改正に関する普及啓発への協力</li> <li>禁煙・受動喫煙防止講演会(学校・地域)への協力</li> <li>健康チャレンジフェアかながわ等への参加</li> <li>かながわ卒煙塾、かながわ卒煙サポートセミナーへの協力</li> </ul>					
	<p>実績</p> <p>【講演会(6/3)の開催】 テーマ:「受動喫煙防止対策の動向(国・神奈川県・藤沢市)」 「行政を動かすためのタバコ対策活動のノウハウ」 【健康増進法改正に関する普及啓発への協力】 神奈川県公衆衛生学会シンポジウム「これからの受動喫煙防止対策の進め方」への協力(企画立案。司会及び講師派遣)(11/21) 【受動喫煙防止講演会】(集計中) 【健康チャレンジフェアかながわ(12/1)への参加】 ブース出展(禁煙相談・スモークアナライザーによる啓発) 【かながわ卒煙塾・かながわ卒煙サポート】 卒煙塾6回(一般1回、企業等5回)、卒煙サポート1回 講師派遣</p>					
<p>以下から選択してください。 A(目標以上に達成した) B(ほぼ目標どおり達成した) C(目標を達成できなかった)</p>	B					

重点取組テーマ				今後のテーマ			
Action9受動喫煙防止の取組							
関連する指標							
①成人の喫煙率②COPDの認知率③日常生活の中で受動喫煙の機会を有する者の割合④未成年と同居する者の喫煙率							
策定時値(2009年度)		中間評価時値(2015年度)		最終目標		健康日本21	
①20.0% ②男性33.3% 女性41.0%	③家庭9.9%、職場14.7%、飲食店41.8%、行政機関5.6%、医療機関0.6%	④男性29.9%、女性10.5%	①19.7% ②男性33.8% 女性38.9%	③家庭9.4%、職場14.9%、飲食店35.7%、行政機関6.6%、医療機関0.54%	④男性31.1%、女性12.2%	①12%②80%③家庭9.4%、職場14.9%、飲食店35.7%、行政機関6.6%、医療機関0.54% ④男性31.1%、女性12.2%	①12%②80%③家庭3%、職場0%、飲食店15%、行政機関0%、医療機関0%④-

横浜市PTA連絡協議会	関連計画
-------------	------

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション		第2期健康横浜21及びよこはま健康アクションStage2に関連する取組方針、目標を記載してください。	最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標	
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業			子ども達の食生活に重点を置き、「早寝・早起き・朝ごはん」の推進と、親(保護者)の健康に関わる生活改善等の充実を図る。	
分野	食生活	運動			
行動目標	バランスよく食べる 野菜たっぷり、塩分少なめ	あと1,000歩歩く/定期的に運動する			

取組状況・振り返り(2013～2016年度)		取組と実績				最終評価	今後の方向性
中間地点		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
健康横浜	<p>①安全に関する研修会へ参加 毎年、研修会や講演会等に積極的に参加し、会員相互の意識向上に努めている。 市P連役員参加の研修会等の場合は、理事会を通して、単位PTAまで広く伝えるよう情報発信に心がけた。よこはま学校食育財団講演会・横浜のこどもお弁当コンクールの後援・周知も行い、お弁当コンクールにおいては、既に三回目となり、回を重ねるごとに参加者も増え、食育に対する興味関心を持っていただけるようになってきた。</p> <p>②毎年、日本PTA全国研究大会において、食の安全・安心についての分科会参加。 各大会ごとに視点も代わり、勉強になっている。参加者は報告書を作成し、各区P連へ配付し、情報共有をしている。</p> <p>③毎年、関東ブロック大会において、健康教育についての分科会等に参加、日P同様、各区P連へ情報共有をしている。</p> <p>④毎年、指定都市大会において市P連役員代表が地域防災等を学ぶ。この数年は、東日本大震災にかかわる貴重な情報が多く、多くの事を学んでいる。横浜にも生かせるよう役員会等でも継続的に話し合いを重ねている。</p> <p>⑤健康福祉局事業への積極的協力、ウォーキングの推進(ウォーキングポイント事業に参画)・各単Pへの申込方法の周知・申込みの実施、参加者への直接PRをした。このPRにより、100名近くの応募があったと聞いている。効果があった。</p>	<p>取組</p> <p>①安全に関する研修会へ参加 よこはま学校食育財団講演会・横浜のこどもお弁当コンクールの後援・周知も行い、今年度も参加者が増え、食育に対する興味関心を引き出した。</p> <p>②日本PTA全国研究大会新潟大会において、安全・安心についての分科会に参加。報告書を作成し、各区部へ配付。理事会にて報告会も開催した。</p> <p>③指定都市・北九州大会において市P連役員代表が地域防災等を学ぶ。理事会にて報告を行い、災害にかかわる貴重な情報を共有できた。</p> <p>④中学校・ハマ弁についての最新情報を市教委よりいただき、保護者への積極的な説明。又、意見交換等を行い、改善点や利点など確認し、子どもたちへの昼食がより良いものになるよう活動を行った。</p>					
	<p>実績</p> <p>①安全に関する研修会へ参加 よこはま学校食育財団講演会・横浜のこどもお弁当コンクールの後援・周知も行い、今年度も参加者が増え、食育に対する興味関心を引き出した。</p> <p>②日本PTA全国研究大会新潟大会において、安全・安心についての分科会に参加。報告書を作成し、各区部へ配付。理事会にて報告会も開催した。</p> <p>③指定都市・北九州大会において市P連役員代表が地域防災等を学ぶ。理事会にて報告を行い、災害にかかわる貴重な情報を共有できた。</p> <p>④中学校・ハマ弁についての最新情報を市教委よりいただき、保護者への積極的な説明。又、意見交換等を行い、改善点や利点など確認し、子どもたちへの昼食がより良いものになるよう活動できた。</p>	B					

以下から選択してください。  
A(目標以上に達成した)  
B(ほぼ目標どおり達成した)  
C(目標を達成できなかった)

重点取組テーマ			今後のテーマ	
Action4子どもの頃からの健康づくり				
関連する指標				
①朝食を食べている小中学生の割合②1日の野菜摂取量・食塩摂取量/主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の割合 ③20～64歳で1日の歩数が男性9,000歩以上、女性8,500歩以上の者の割合④20～64歳で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続				
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)		最終目標	健康日本21
①94% ②271g、10.7g/ 男性40.6%女性42.1%	①93.3% ②287g、10.3g/ 男性41.3%女性44.5%	③男性41.7、女性30.8% ④全体24.3%、男性26.7%、女性21.4%	①100%②350g・8g/80% ③50%④全体34%、男性35%、女性33%	①100%②350g・8g/80% ③平均が男性9,000歩、女性8,500歩 ④全体34%、男性36%、女性33%

JA横浜	関連計画
------	------

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「総りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション	
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業	
分野	食生活	
行動目標	バランスよく食べる 野菜たっぷり、塩分少なめ	

第2期健康横浜21及びよこはま健康アクションStage2に関連する取組方針、目標を記載してください。

最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標
めざせ！健康寿命100歳講座の継続によって組合員、地域住民の健康づくりの一助を担う。組合員の検診受診率の向上をめざす。子どもの頃から農業に親しみ、食農教育を通じて子供の健康づくりの普及啓発に努める。

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組と実績				最終評価	今後の方向性
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
<p>中間地点</p> <p>健康横浜</p> <p>・24年度から実施している「健康寿命100講座」は内容や開催会場を検討した結果、地域住民に定着した事業となり25年度から28年度までの参加人数は766名となった。</p> <p>・会場の工夫:当初は同会場で6回の内容で開催していたが4年目からは3会場としたところ参加人数が大きく増加した。</p> <p>・内容の工夫:当初、500円の受講料で外部講師による講座を午後から行っていたが28年度より500円受講料で地産地消費当付き講座とした。講師は、キャラバンメイト資格取得者のJA職員がつとめ映像を使用した認知症予防の「脳活レクリエーション」に変更した。結果、座学が中心の講座となり1回の定員も50名と増加し毎回定員を大きく超える申し込みがある。</p> <p>・今後も毎回実施しているアンケートを参考に地域住民を対象とした講座を開催していく。</p>	<p>取組</p> <p>28年度より内容をリニューアルし、『めざせ！健康寿命100歳～農協DE脳強～』と題して開催。地域住民の概ね60歳以上の元気な方を対象に実施している。</p> <p>・より多くの方に参加頂けるようJA横浜管内50店舗ある支店を持ち回りし、6会場(年6回)開催している。29年度参加人数は327名と1回の定員50名を上回る参加人数であった。</p> <p>・29年度までは参加費500円で地産地消費当付き講座としていたが、30年度より800円に参加費を値上げして開催している。</p> <p>・今後もアンケートを参考に、喜ばれる講座を開催していく。</p>					
	<p>実績</p> <p>6会場実施し参加者158名。脳トレや地産地消費当など参加者からは大変喜ばれる内容だった。また、開催地区の区役所、地域ケアプラザ等の協力により組合員や地域住民の健康意識を高めることができた。ただし、定員300名のところ申込182名、当日参加158名と52%の参加率であった。参加費500円(ワンコイン)から800円に値上げしたことも要因と思われる。</p> <p>～農協DE脳強～はインパクトがあるので、今後開催方法等は検討し引き続き喜ばれる講座を開催していく。</p>					
<p>以下から選択してください。 A(目標以上に達成した) B(ほぼ目標どおり達成した) C(目標を達成できなかった)</p>	<p>達成度</p> <p>B</p> <p>実施内容はおおむね計画どおり実施することができた。参加人数が予定より大幅に低く残念な結果となった。</p>					

重点取組テーマ				今後のテーマ	
Action4子どもの頃からの健康づくり					
関連する指標					
①朝食を食べている小中学生の割合②1日の野菜摂取量・食塩摂取量／主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の割合③60歳代でなんでも噛んで食べることができる者の割合					
策定時値(2009年度)		中間評価時値(2015年度)		最終目標	健康日本21
①94% ②271g、10.7g/ 男性40.6%女性42.1%	③67.7%	①93.3% ②287g、10.3g/ 男性41.3%女性44.5%	③76.9%	①100%②350g・8g/80% ③80%	①100%②350g・8g/80% ③80%

(株)神奈川新聞社		関連計画	
ライフステージ		■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」
		■「総りの世代」	

取組テーマ		健康アクション		第2期健康横浜21及びよこはま健康アクションStage2に関連する取組方針、目標を記載してください。	最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標	
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防		■アクション事業			2021年に神奈川県内で開催される「ねんりんピック」に向けて機運醸成を図るため特集紙面などの掲載を予定。翌22年には、「ねんりんピック」までの取り組みをこの大会で終わらせず、引き続き健康寿命の伸長、福祉の充実を啓発していく。2022年度までに、横浜市内での運動催事「開港ウォーク」の開催を検討。	
分野	運動(育ち・学び)	運動(働き・子育て)	運動(総り)			
行動目標	毎日楽しくからだを動かす	定期的に運動する／あと、1000歩歩く	歩く、外出する			

取組状況・振り返り(2013～2016年度)		取組と実績				最終評価	今後の方向性
中間地点		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
健康横浜	<p>・紙面啓発＝28年度からシニア読者層に対応した健康・医療・福祉の専門面「支え合い」「すこやか」面を開設。週1回見開き(火曜日付)で展開中。読者ニーズの高い紙面で、当面、同紙面を維持する。現在のメイン企画は「介護の現場から」で神奈川県内の地域包括ケアシステムについて注目されるモデル事業などを紹介。地域での介護の担い手が紙面を活用し先進事例などを学ぶ資料になるよう働きかけたい。</p> <p>・医療・健康セミナー・催事などでの啓発＝年間に数回、500～1000人規模のセミナー・座談会・関連催事などを実施。本年度はがん制圧月間特集(9月、胃がんの早期発見)や県介護フェア(11月)、メディカルセミナー(2月)など。比較的に大きな催事は参加希望が多いため、抽選による事前申し込み制になっていることから小規模セミナーなどで漏れなくニーズに対応することが課題。</p> <p>・運動催事による啓発＝ウォーク、ランニング、自転車などのイベントの実施。</p> <p>ウォーク…ヨコスカ海道ウォーク(28年度で4回実施。毎回3,000～4000人参加。横浜市民の参加は3割程度)、大棧橋マルシェ(28年度に3回計6日間実施、来場8万人)</p> <p>ランニング…ヨコハマ国際ちびっこ駅伝(28年度までで26回実施、小学中・高学年対象、4,000～5,000人参加、日産スタジアム)</p> <p>自転車…サイクルチャレンジ(28年度までで3回実施、藤沢市)</p> <p>運動催事は既存の取り組みはさらに参加者を増やすように努める。29年度実施の親子ランニングイベント「大さん橋マラソン」(11月、3,000人規模)や自転車を活用したまちづくりシンポ(11月)は着実に実施する。30年実施予定の三浦半島サイクルチャレンジを具体化する。共催する神奈川マラソン、神奈川駅伝は当社が継続するかは要検討。</p>	<p>従来から続く「支え合い」「すこやか」面については、読者ニーズも高いため、引き続き展開していく予定。</p> <p>運動催事「海道ウォーク」「サイクルチャレンジ」「ちびっこ駅伝」についても継続し、2022年度までに横浜市内での「開港ウォーク」の実施へと繋げていく。</p> <p>2021年に開催される「ねんりんピック」に向け、特集を掲載すべく準備中。</p> <p>メディカルセミナー、がん征圧キャンペーン特集など既存のセミナー、啓発特集を継続するほか、医療系の取り組みの回数を増やしていきたい。</p>					
		調整中					
	<p>以下から選択してください。 A(目標以上に達成した) B(ほぼ目標どおり達成した) C(目標を達成できなかった)</p>	達成度					

重点取組テーマ				今後のテーマ		
Action6よこはま健康スタイル						
関連する指標						
①運動やスポーツを週3日以上行う小学5年生の割合②20～64歳で1日の歩数が男性9,000歩以上、女性8,500歩以上の者の割合③20～64歳で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続④65歳以上で1日の歩数が男性7,000歩以上、女性6,000歩以上の者の割合⑤65歳以上で1日30分、週2回以上の運動を1年間継続						
策定時値(2009年度)		中間評価時値(2015年度)		最終目標	健康日本21	
①男子:49.7% 女子:25.8%	②男性46.8%、女性41.7% ③全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	④男性46.9%、女性34.6% ⑤全体46.0%、男性60.9%、女性33.3%	①男子:49.7% 女子:25.8%	②男性46.8%、女性41.7% ③全体26.8%、男性25.4%、女性27.5%	④男性46.9%、女性34.6% ⑤全体46.0%、男性60.9%、女性33.3%	①増加傾向②男50%、女50%③全34%、男36%、女33%④男50%、女40%⑤全52%、男58%、女48%

横浜南労働基準監督署	関連計画
------------	------

ライフステージ	<input type="checkbox"/> 「育ち・学びの世代」 <input checked="" type="checkbox"/> 「働き・子育て世代」 <input checked="" type="checkbox"/> 「総りの世代」
---------	--

取組テーマ	健康アクション	
<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣の改善 <input type="checkbox"/> 生活習慣病の重症化予防	<input checked="" type="checkbox"/> アクション事業	
分野	休養・こころ	
行動目標	睡眠とってしっかり休養	

第2期健康横浜21及びよこはま健康アクションStage2に関連する取組方針、目標を記載してください。

最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標
働き方改革の実現に向け、最重点課題として取り組む。心の健康づくり計画の策定事業場(50人以上の事業場)の割合を80%以上(2017年:70%)とする。ストレスチェックの集団分析実施事業場の割合を85%以上(2017年:79.7%)とする。

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組と実績				最終評価	今後の方向性
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
中間地点  ・全国労働衛生週間横浜南地区推進大会において、平成25年度「職場のメンタルヘルス対策」(参加者366名)、平成26年度「ロコモティブシンドローム」(参加者487人)、平成27年度「ストレスチェック制度について」(参加者650人)、平成28年度「ストレスチェック制度をいかに健康増進につなげるか」(参加者455人)と近年はストレスチェック制度(平成27年12月1日施行)の啓発を主に行ったところ、平成29年7月末において、ストレスチェック実施率が当署管内は、78.2%(平均74.9%)であったことから少しは啓発の効果があったと考える。 ・社会福祉施設については、全国的に事業場数が毎年、増加しており、労働災害発生件数も10年で2倍となっている。当署では、横浜市と連携して講習会等を毎年、実施しているが、腰痛等の労働災害発生件数は、横ばい状態である。今後も、事業場数が増加することが見込まれることから、引き続き、横浜市との連携を強化して、腰痛等の労働災害発生防止を推進する必要があると考える。	取組 働き方改革の推進に向けた労働時間に関する法制度等の理解の促進を図り、長時間労働の抑制及び過重労働による健康障害防止対策を徹底する。また、全国労働衛生週間横浜南地区推進大会等各種会合や個別指導等により、職場におけるメンタルヘルス対策を推進する。					
	実績 平成31年4月1日から順次施行される働き方改革関連法の周知を重点課題とし、関係団体等と連携した集団指導や訪問指導を実施した。また、全国労働衛生週間横浜南地区推進大会等各種会合や個別指導等により、職場におけるメンタルヘルス対策の履行・定着に向けた指導を行った。					
以下から選択してください。 A(目標以上に達成した) B(ほぼ目標どおり達成した) C(目標を達成できなかった)	達成度	B				

重点取組テーマ				今後のテーマ		
Action2健康経営の推進、Action4子どもの頃からの健康づくり						
関連する指標						
睡眠による休養を十分とれていない者の割合						
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)			最終目標	健康日本21	
男性38.2% 女性34.0%	男性40.2%、女性36.0%			15%	15%	

横浜市歯科医師会		関連計画	
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「移りの世代」
取組テーマ	健康アクション		最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業	第2期健康横浜2-1及びよこはま健康アクションStage2に関連する取組方針、目標を記載してください。	○目標 乳幼児歯科健康診査事業の受診率の更なる向上、地域格差の是正、第2子以降のう蝕罹患率減少、成長発育を鑑みた歯科口腔保健の推進
分野	歯・口腔		◆保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る事業 ・横浜市保育所入所児童歯科健診の質の向上 ・保育士・看護師等のための歯の保健指導法研修会開催 ・横浜市保育所等入所児童歯科健診事業健診医師研修会の開催 ・歯科保健事業企画運営会議の開催
行動目標	しっかりと噛んで食後は歯磨き 定期的に歯のチェック	口から食べるを維持	○目標 保育園歯科医の質の向上、保育所入所児童の歯科・口腔にかかわる情報の蓄積と分析(健診データの活用)、保育所事業にかかわる職種との情報の共有 ◆横浜市歯と口の健康週間事業 ・横浜市歯と口の健康週間中央行事開催 ・横浜市18区における各区歯と口の健康週間行事の支援実施 ○目標 市民参加型のイベントとして正しい歯科口腔にかかわる情報発信、多職種協働イベント ◆オーラルケア推進事業 ・歯周病検査の実施 ・横浜市歯周病検査実施医療機関研修会への協力 ・横浜市オーラルケア推進に関する懇談会への参加 ○目標 歯周病検査受診率の向上(目標数値の設定)、検査結果の分析、特定健診との連動(糖尿病のスクリーニング)、歯周病と全身疾患の関連に関する啓発活動の推進 ◆横浜市介護予防事業 ・元気づりステーションにおける「口腔機能向上」「栄養改善」説明ツールの開発 ・オーラルフレイル対策 ・診療所で行う口腔機能向上研修会の開催 ○目標 オーラルフレイルの予防ならびに対策の拡充、元気づりステーションを軸とした啓発活動の推進 ◆生活習慣病重症化予防 ・横浜市国民健康保険健康事業評価・向上委員会への参加 ・横浜市歯と口の健康週間中央行事にて特定健診受診勧奨ブースの設置 ・横浜市歯科医師会会員診療所に特定健診受診勧奨用ポスター掲示 ・糖尿病・歯周病重症化予防のための横浜市医師科歯科連携事業の開始 ・歯科科レセプトデータと他データとの比較・分析(KDB以外の方法の確立)、データ分析による疾患の重症化予防のプログラムの作成、データを活用した医療費適正化事業の推進、糖尿病重症化予防への積極的参画、特定健診・保健指導への積極的参画、特定健診受診率向上への協力 ◆横浜市食育関連事業 ・横浜市食育フォーラムへの参加 ○目標 各年における問題点の抽出と課題への協力、歯科・口腔における食育事業への積極的参画 ◆口腔粘膜疾患啓発事業 ・口腔粘膜疾患にかかわる研修会の実施 ・口腔粘膜疾患の啓発活動 ・事業に関する情報・データ等の共有 ○目標 口腔粘膜疾患の啓発活動の推進、希少がんに対する調査・研究に対する

取組状況・進捗(2013～2016年度)	
中間地点	
<p>○保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市保育所入所児童歯科健診の実施</li> <li>・保育士・看護師等のための歯の保健指導法研修会の開催</li> <li>・保育士・幼稚園等の職員対象の乳幼児保健研修会の開催</li> <li>・横浜市保育所等入所児童歯科健診事業健診医師研修会の開催</li> </ul> <p>◆横浜市歯と口の健康週間事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市18区における各区 歯と口の健康週間行事の支援実施</li> </ul> <p>◆横浜市妊婦歯科健診診査事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市妊婦歯科健診診査の実施(横歯会理事事務事業の支援)</li> <li>・横浜市妊婦歯科健診診査事業実施医療機関研修会開催協力(横歯会理事・未入会者対象)</li> <li>・横浜市妊婦歯科健診診査事業協議会への参加</li> </ul> <p>○乳幼児歯科健診事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各区歯科医師会担当委員会開催(乳幼児歯科健診に関わる内容を含む)</li> <li>・乳幼児歯科健診マニュアルの作成・配布(横浜市歯科医師会・鶴見大学小児歯科学講座協賛)</li> <li>・乳幼児健診診査事業研修会の開催</li> </ul> <p>◆オーラルケア推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯周病検査の実施</li> <li>・横浜市歯周病検査実施予定医療機関研修会の開催(※平成29年より歯周病検査に名称変更)</li> <li>・横浜市オーラルケアの推進に関する懇談会への参加</li> </ul> <p>○横浜市介護予防事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロコモ予防推進検討会への参加</li> <li>○各地区で実施している歯周病予防教室・食生活改善改善推進員事業等の把握</li> <li>・各区歯科医師会担当委員会開催(各区福祉保健センターにおける事業等の把握を含む)</li> <li>○各地区で実施している介護予防事業等の把握</li> <li>・各区歯科医師会担当委員会開催(各区福祉保健センターにおける事業等の把握を含む)</li> <li>◆横浜市食育関連事業</li> <li>・横浜市食育フォーラムへの参加</li> <li>○生活習慣病重症化予防</li> <li>・横浜市国民健康保険健康事業検討会への参加</li> <li>・横浜市データヘルス計画にかかわる検討会への参加</li> </ul>	<p>2018年度</p> <p>◆保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市保育所入所児童歯科健診の実施(本事業の趣旨等の説明)</li> <li>・保育士・看護師等のための歯の保健指導法研修会開催(10/25)『口腔疾患の予防と口腔機能に関する研修』対象 公立・私立保育所等に勤務する職員等</li> <li>・保育所・幼稚園等の職員対象の乳幼児保健研修会の開催(平成30年度実施予定)</li> <li>・横浜市保育所等入所児童歯科健診事業健診医師研修会の開催</li> </ul> <p>◆横浜市歯と口の健康週間事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市歯と口の健康週間中央行事の開催(6/10)他団体、多職種と連携し『のぼそよ 健康寿命 歯みがきで』実施、3000人強の来場者あり 口腔を連じ健康・食育に関する情報を発信</li> <li>・横浜市18区における各区歯と口の健康週間行事の支援実施 18区と連携し、市民に対するオーラルケアの向上を図る</li> </ul> <p>◆横浜市妊婦歯科健診診査事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市妊婦歯科健診診査の実施(横歯会理事事務事業の支援) 妊婦歯科健診受診率向上を目的として市民啓発用ポスターの開発</li> <li>・横浜市妊婦歯科健診診査事業実施医療機関研修会開催協力(横歯会理事・未入会者対象)</li> <li>・横浜市妊婦歯科健診診査事業協議会への参加</li> </ul> <p>◆乳幼児歯科健診事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各区歯科医師会担当委員会開催(乳幼児歯科健診に関わる内容を含む)</li> <li>・乳幼児歯科健診マニュアル配布(横浜市歯科医師会員対象)</li> <li>・乳幼児歯科健診内容含む研修会の開催</li> </ul> <p>◆オーラルケア推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯周病検査の実施</li> <li>・横浜市歯周病検査実施医療機関研修会の開催</li> <li>・オーラルケア懇談会への参加</li> </ul> <p>◆横浜市介護予防事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気づりステーションにおける「口腔機能向上」「栄養改善」説明ツールの開発</li> <li>・オーラルフレイル対策</li> <li>◆生活習慣病重症化予防</li> <li>・特定健診受診率向上に対する協力</li> <li>・特定健診・歯周病重症化予防啓発</li> <li>◆横浜市食育関連事業</li> <li>・横浜市食育フォーラムへの参加</li> <li>・横浜市食育プロモーション支援事業への協力(平成30年11月18日に食育フォーラムの開催予定)</li> <li>・横浜市食育フォーラムへの参加 多職種との連携(歯と口の健康週間行事において実施した)事業展開</li> <li>・食育時における口腔ケアの市民公開講座と、児童・生徒たちの口拭きの口腔ケアの習慣づけ</li> </ul> <p>2019年度</p> <p>◆保育所入所児童の歯科・口腔保健に係る事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市保育所入所児童歯科健診の実施(本事業の趣旨等の説明) 地区担当者協議会にて説明 開催日時:平成30年9月27日(木)</li> <li>・保育士・看護師等のための歯の保健指導法研修会開催 上記名称変更:口腔疾患の予防と口腔機能育成に関する研修(公立・私立保育所等に勤務する職員等対象)テーマ:『口腔疾患の予防と口腔機能育成に関する研修』 開催日時:平成30年10月25日(木) 参加者数:40名</li> <li>・乳幼児保健研修会の開催(保育所・幼稚園等の職員対象) 開催日時:平成31年2月7日(木) 参加者数:128名</li> <li>・横浜市保育所等入所児童歯科健診事業健診医師研修会の開催 開催日時:平成30年3月10日(木) 参加者数:2名</li> <li>・歯科保健事業企画運営会議の開催</li> </ul> <p>◆横浜市歯と口の健康週間事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市歯と口の健康週間中央行事開催 開催日時:平成30年6月10日(日) 参加者数:3,057名 ※延べ人数 他団体、多職種との連携:神奈川県栄養士会・東京ガスクロス テーマ:『のぼそよ 健康寿命 歯みがき』 口腔を連じ健康・食育に関する情報を発信</li> <li>・横浜市18区における各区歯と口の健康週間行事の支援実施</li> </ul> <p>◆横浜市妊婦歯科健診診査事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市妊婦歯科健診診査の実施 受診者数:横歯会員 5,708名 未入会員 2,784名 ※平成31年2月20日現在</li> <li>・横浜市妊婦歯科健診診査事業受診率向上を目的とした市民啓発用ポスターの開発 妊婦歯科健診受診勧奨用ポスターの作成 ポスター配布先:横歯会員・横浜市内調剤薬局(横歯協会員)他 啓発キャラクター『はえちゃん』</li> <li>・横浜市妊婦歯科健診診査事業実施医療機関研修会への協力 開催日時:①平成30年9月13日(木) ②平成31年2月7日(木) 参加者数:①横歯会員 18名 未入会員 14名 ②横歯会員 16名 未入会員 18名</li> </ul> <p>◆乳幼児歯科健診事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児歯科健診にかかわる現状・対策等情報・データとの共有 地区担当者協議会の開催 開催日時:平成30年9月27日(木)</li> <li>・乳幼児歯科健診マニュアル配布(横浜市歯科医師会員対象 新入会員)</li> <li>・乳幼児健診事業研修会の開催(乳幼児の歯磨きに関する新たな健診項目説明含む) 開催日時:平成31年2月21日(木)参加者数:69名</li> </ul> <p>◆オーラルケア推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯周病検査の実施 受診者数:1,048名 ※平成31年2月20日現在</li> <li>・横浜市歯周病検査実施医療機関研修会への協力 開催日時:平成31年3月7日 出席者数:28名</li> <li>・横浜市オーラルケア推進に関する懇談会への参加 開催日時:平成31年3月7日(木)</li> </ul> <p>◆横浜市介護予防事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気づりステーションにおける「口腔機能向上」「栄養改善」説明ツールの開発</li> <li>・オーラルフレイル対策</li> <li>・診療所で行う口腔機能向上研修会の開催 開催予定日:平成31年3月31日(日)</li> </ul> <p>○生活習慣病重症化予防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市国民健康保険健康事業評価・向上委員会への参加 開催日時:平成31年1月16日(木)</li> <li>・横浜市歯と口の健康週間中央行事にて特定健診受診勧奨ブースの設置</li> <li>・横浜市歯科医師会会員診療所に特定健診受診勧奨用ポスター掲示</li> <li>・糖尿病・歯周病重症化予防のための横浜市医師科歯科連携事業の開始</li> </ul> <p>◆横浜市食育関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市食育フォーラムへの参加 開催日時:①平成30年9月11日(火) ②平成31年3月26日(火)</li> </ul> <p>◆口腔粘膜疾患啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔粘膜疾患にかかわる研修会の実施</li> <li>・口腔粘膜疾患の啓発活動</li> <li>・事業に関する情報・データ等の共有</li> </ul> <p>○口腔がん検診地区担当者協議会 開催予定日:平成30年3月14日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市歯と口の健康週間中央行事開催 平成30年6月10日(日) ガムで噛む力チェックコーナー200名(食育とヘルスプロモーションの観点)</li> <li>・歯周病予防事業 平成30年6月28日から平成31年1月31日まで155回巡回登録衛生士派遣 小中義務教育学校及び特別支援学校における歯科教育の重要性を考慮し児童生徒に対する歯の大切さ及び口腔内の健康を連じ健康教育の推進を図った。</li> <li>・食育フォーラム 平成30年11月18日(日) 参加者179名 内容 小児歯科から子どもの食を考える、学校で進める食育、(学校と家庭の連携を目指して)特別支援学校の食育について、よく噛んで良い姿勢で食べる指導、子供たちの成長・発達を歯科から考える。(学童期の食の課題について)</li> </ul>
達成度	B

以下から選択してください。  
A(目標以上に達成した)  
B(ほぼ目標どおり達成した)  
C(目標を達成できなかった)

重点取組テーマ		今後のテーマ	
Action8ロコモ予防/フレイル・オーラルフレイル			
関連する指標			
①3歳児でむし歯のない者の割合②12歳児の1人平均むし歯数③40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合④過去1年間に歯科健診を受けた者の割合⑤60歳代でなんでも噛んで食べることでできる者の割合⑥80歳代で20歯以上自分の歯を有する者の割合			
策定時値(2009年度)		中間評価時値(2015年度)	
①83.9%②0.55歯	③21% ④男性42.5%、女性54.2%	①87.5%②0.4歯	③26.6% ④男性45.2%、女性56.0%
⑤67.7%⑥36.2%		⑤76.9%⑥47.3%	⑦90%⑧維持・減少⑨維持・減少⑩65%⑪80%⑫50%
最終目標		健康日本21	
①→②		③→④	



相鉄ローゼン(株)		関連計画	
ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「稔りの世代」
取組テーマ	健康アクション		第2期健康横浜2.1及びよこはま健康アクションStage2に関連する取組方針、目標を記載してください。
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業		
分野	食生活		
行動目標	バランスよく食べる 野菜たっぷり、塩分少なめ		
			最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標
			調整中

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組と実績				最終評価	今後の方向性
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
中間地点						
健康横浜 ①神奈川県をを進める会とともに食育活動に継続して参画・いずみ野マルシェ(相鉄線いずみ野線沿線 環境未来都市構想、地域活性化のため、いずみ野駅前店で地元野菜、惣菜の店頭販売(地産地消)・市内加工品の販売) ・神奈川県が推進する「未病(健康長寿)」に関する情報発信基地(店)として協力 ②インフルエンザ予防接種啓蒙の推進 ・インフルエンザ・風邪の予防のため、本社と各店舗にうがい薬と紙コップを配付し、うがいの励行 ・インフルエンザの予防接種を健康保険組合、共済組合の補助を受け実施。本年も社員の1/4が実施 ③生活習慣病健診対象の希望者に、自己負担で腫瘍マーカー検査を実施。(受診者の約1/3が検査を受診)	取組 ①神奈川県をを進める会とともに食育活動に継続して参画・いずみ野マルシェ(相鉄線いずみ野線沿線 環境未来都市構想、地域活性化のため、いずみ野駅前店で地元野菜、惣菜の店頭販売(地産地消)・市内加工品の販売) ・神奈川県が推進する「未病(健康長寿)」に関する情報発信基地(店)として協力 ②インフルエンザ・風邪の予防のため、本社と各店舗にうがい薬と紙コップを配付し、うがいの励行 ・インフルエンザの予防接種を健康保険組合、共済組合の補助を受け実施。本年も社員の1/4が実施 ③生活習慣病健診対象の希望者に、自己負担で腫瘍マーカー検査を実施。(受診者の約1/3が検査を受診)					
	実績 食育活動に継続して参画。未病に関する情報発信に協力従業員の健康促進のため、インフルエンザ予防接種の啓蒙、推進。定期健康診断受診対象者の内、希望者に自己負担での腫瘍マーカー、ピロリ菌検査、PSA(前立腺がん)検査を追加実施。					
以下から選択してください。 A(目標以上に達成した) B(ほぼ目標どおり達成した) C(目標を達成できなかった)	達成度 B					

重点取組テーマ				今後のテーマ	
Action2健康経営の推進、Action4子どもの頃からの健康づくり					
関連する指標					
①朝食を食べている小中学生の割合②1日の野菜摂取量・食塩摂取量/主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の割合 ③60歳代でなんでも噛んで食べることができる者の割合					
策定時値(2009年度)		中間評価時値(2015年度)		最終目標	健康日本21
①94% ②271g、10.7g/ 男性40.6%女性42.1%	③67.7%	①93.3% ②287g、10.3g/ 男性41.3%女性44.5%	③76.9%	①100%②350g・8g/80% ③80%	①100%②350g・8g/80% ③80%

(公社)神奈川県栄養士会	関連計画
--------------	------

ライフステージ	■「育ち・学びの世代」	■「働き・子育て世代」	■「総りの世代」
---------	-------------	-------------	----------

取組テーマ	健康アクション	第2期健康横浜2-1及びよこはま健康アクションStage2に関連する取組方針、目標を記載してください。	最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標
■生活習慣の改善 □生活習慣病の重症化予防	■アクション事業		・「育ち・学びの世代」: 食物や栄養に関心を持ち、きちんと食べて健康で元氣な身体になろうとする人を増やす ・「働き・子育て世代」: 野菜を食べることや塩分摂取について意識し、バランスよく食べる人を増やす ・「総りの世代」: しっかりと口から食べて、食を楽しむ実践に取り組む人を増やす
分野	食生活		
行動目標	バランスよく食べる 野菜たっぷり、塩分少なめ		

取組状況・振り返り(2013～2016年度)	取組と実績					最終評価	今後の方向性
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度		
<p>中間地点</p> <p>健康横浜</p> <p>&lt;横浜県民活動事業部の取組&gt;            ■「育ち・学びの世代」に向けての取組            かながわ食育フェスタに継続参加し、食育クイズやゲームを通して親子で楽しく学べる食育活動を展開している            平成25年度来場者2800名平成26年300名平成27年300名            平成28年408名 総計3808名            ■「働き・子育て世代」に向けての取組            健康チャレンジフェアかながわ・展示ブースではレシピ配布や臺の使い方の指導、栄養相談を行い健康情報を提供している            平成25年110名平成26年126名平成27年150名平成28年252名 総計638名            けんぽう健康 健康応援フェア・特定保健指導の「栄養講話」を担当し、生活習慣を見直す機会とした 平成25年90名平成27年160名平成28年130名 総計380名            ■「総りの世代」に向けての取組            シニア料理教室開催・会員が講師となり健康寿命延伸に必要な介護予防の食生活について講話と調理実習を年間2回継続開催している            平成26年65名平成27年56名平成28年53名 総計174名 男性の参加者もあり、実践的具体的な取組、今後は地域の支え合いとしての役割も考えたい            ■すべてのライフステージに向けた取組            市民公開講座、市民活動フェア、青葉区健康フェアにおいて食生活相談、栄養相談を実施し、栄養士の紹介、アピールをし、食を通じた健康づくりへの関心を深めた            青葉区健康フェア 平成25年200名平成26年289名平成27年362名平成28年517名と年々増加し周知されている 市民活動フェア 平成25年20名 平成27年56名平成28年度56名 栄養相談の件数も増えていることから気軽に食生活の相談が受けられる拠点が必要と考える</p>	<p>取組</p> <p>(1)「育ち・学びの世代」にむけて: 食育事業と連動しながら、親子で楽しく学べる機会と教材の提供            (2)「働き・子育て世代」にむけて: 野菜摂取や塩分量への気づきを促し、食生活を見直す機会の提供、食品の選択、栄養表示の活用・バランスのよい食事のとり方等のスキルアップを支援。レシピの提供などの実践的な方法で継続を支援            (3)「総りの世代」にむけて: フレイル予防のためにしっかりと食べることの大切さを知り、食を楽しむ場の提供と支援            (4)すべてのライフステージ、すべての地域で、多職種との連携を強化しながら、市民の健康増進事業・介護予防事業を推進</p>						
	<p>実績</p> <p>①「育ち・学びの世代」に向けての取組/かながわ食育フェスタに継続参加し、親子で楽しく学べる食育活動を展開。参加者562名/横浜市中心市場と連携し、若い子育て世代に向けて、子どもと一緒にしっかりと食べる離乳食ハンドブックを作成。2000部/市歯科医師会と連携し、歯と口の健康習慣行事に参加。主食・主菜・副菜を組み合わせて美味しく食べることを劇形式で普及。参加者150名            ②「働き・子育て世代」に向けての取組/健康チャレンジフェアかながわに参加し、塩分官能検査を実施。減塩の普及や減塩食のレシピを配布して啓発。参加者256名/よこはま健康デザインフェアで横浜市健康づくり課に協力し、栄養相談を実施。参加者46名。特定保健指導事業において栄養指導を実施。参加者80名            ③「総りの世代」に向けての取組/シニア健康料理教室を認知症予防の食事などについて2回実施。参加者43名            ④すべてのライフステージに向けた取組/市民公開講座を実施し、これからの地域包括ケアにおける栄養ケアについて講演会を実施。参加者40名</p>						
<p>以下から選択してください。            A( 目標以上に達成した)            B( ほぼ目標どおり達成した)            C( 目標を達成できなかった)</p>	A						

重点取組テーマ					今後のテーマ	
Action4子どもの頃からの健康づくり						
関連する指標						
①朝食を食べている小中学生の割合②1日の野菜摂取量・食塩摂取量/主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の割合 ③60歳代でなんでも噛んで食べることができる者の割合						
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)			最終目標	健康日本21	
①94% ②271g、10.7g/ 男性40.6%女性42.1%	①93.3% ②287g、10.3g/ 男性41.3%女性44.5%		③76.9%	①100%②350g・8g/80% ③80%	①100%②350g・8g/80% ③80%	

神奈川県産業保健総合支援センター	関連計画
------------------	------

ライフステージ	<input type="checkbox"/> 「育ち・学びの世代」	<input checked="" type="checkbox"/> 「働き・子育て世代」	<input type="checkbox"/> 「稔りの世代」
---------	-------------------------------------	--	----------------------------------

取組テーマ	健康アクション	最終年度(2022年度)に向けた取組方針、目標
<input checked="" type="checkbox"/> 生活習慣の改善 <input type="checkbox"/> 生活習慣病の重症化予防	<input checked="" type="checkbox"/> アクション事業	第2期健康横浜21及びよこはま健康アクションStage2に関連する取組方針、目標を記載してください。 1.事業場の産業保健活動の普及促進を通じた「健康経営の推進」Action2 2.事業場における健康診断の事後措置による「糖尿病等の重症化予防」Action3 3.快適な職場づくり等による「受動喫煙防止の取組」Action9
分野	休養・こころ	
行動目標	睡眠とってしっかり休養	

取組状況・振り返り(2013~2016年度)	取組と実績				最終評価	今後の方向性
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
<p>中間地点</p> <p>平成26年4月から、産業保健を支援する3つの事業(以下の①②③)を一元化して、「産業保健活動総合支援事業」として、事業場の産業保健活動の総合的な支援となった。</p> <p>①地域産業保健事業 労働者数50人未満の事業場の事業者や労働者を対象に産業保健サービスの提供</p> <p>②産業保健推進センター事業 産業保健スタッフなどを対象に、相談、研修、情報提供などの支援</p> <p>③メンタルヘルス対策支援センター事業 産業保健スタッフや事業主を対象に職場のメンタルヘルス対策の支援</p> <p>これらの産業保健事業については関係行政機関、災害防止団体及び事業者団体等と連携し会議、研修及び集会等あらゆる機会を捉えて周知広報を図り、事業場の産業保健活動の支援及び産業保健活動へのニーズ対応する事業の展開に努めた。</p> <p>今後一層の産業保健事業を展開するため当センターの認知度を向上に努めたい。</p>	<p>取組</p> <p>産業保健活動総合支援事業として、事業場における産業保健を支援する3つの事業(以下の①②③)に加え、2017年度から、厚生労働省が示した『事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン』に基づき、④の事業に取り組んでいる。</p> <p>①地域産業保健事業 労働者50人未満の事業者及び労働者を対象とした、産業保健活動の支援</p> <p>②産業保健総合支援センター事業 産業保健関係者を対象とした、相談、研修、情報提供などの支援</p> <p>③メンタルヘルス対策の普及促進事業 産業保健関係者や労働者を対象とした、職場のメンタルヘルス対策に関する相談や事業場の個別訪問支援</p> <p>④治療と職業生活(仕事)の両立支援事業 治療と仕事の両立支援対策に関する制度の普及促進、労働者と事業場との間の個別調整支援</p>					
<p>達成度</p> <p>以下から選択してください。            A(目標以上に達成した)            B(ほぼ目標どおり達成した)            C(目標を達成できなかった)</p>	A					

重点取組テーマ				今後のテーマ			
Action2健康経営の推進、Action4子どもの頃からの健康づくり							
関連する指標							
睡眠による休養を十分とれていない者の割合							
策定時値(2009年度)	中間評価時値(2015年度)			最終目標	健康日本21		
男性38.2% 女性34.0%	男性40.2%、女性36.0%			15%	15%		

## 歯科口腔保健条例に基づく歯科口腔保健の推進に関する検討部会の設置について

### 1 趣旨

平成 31 年第 1 回横浜市会定例会において、横浜市歯科口腔保健の推進に関する条例が可決され、平成 31 年 4 月 1 日に施行されることとなりました。

条例では、「歯科口腔保健の推進に関する重要事項を定めるにあたっては、健康横浜 2 1 推進会議の意見を聴くこと」とされています。

つきましては、健康横浜 2 1 推進会議において、歯科口腔保健の推進に関する検討部会を設置し、検討を進めます。

### 2 健康横浜 2 1 推進会議に設置する検討部会について

- (1) 部会名  
歯科口腔保健の推進に関する検討部会（仮称）
- (2) 検討内容  
歯科口腔保健の推進に関する計画策定に向けた検討、その他必要な事項

### 3 条例概要

- (1) 条例  
横浜市歯科口腔保健推進に関する条例（別添資料を御参照ください）
- (2) 主な内容
  - ア 市、市民、歯科医療等関係者及び保健医療等関係者の責務を明記
  - イ 保健医療等関係者の支援や連携の充実
  - ウ 歯科口腔保健の推進に関する基本的施策の充実
  - エ 歯科口腔保健推進計画の策定

担当 横浜市健康福祉局保健事業課健康づくり担当 安達・関  
電話：6 7 1 - 4 0 4 2

---

条 例

---

横浜市歯科口腔保健の推進に関する条例をここに公布する。

平成31年2月25日

横浜市長 林 文 子

横浜市条例第1号

横浜市歯科口腔保健の推進に関する条例

(目的)

第1条 この条例は、歯及び口腔の健康が健康寿命の延伸及び生活の質の向上に重要な役割を果たしていることに鑑み、歯科口腔保健の推進に関し、基本理念を定め、横浜市（以下「市」という。）、市民、歯科医療等関係者、保健医療等関係者及び事業者（労働者を使用して市内で事業を行う者をいう。以下同じ。）の責務を明らかにするとともに、歯科口腔保健の推進に関する施策の基本となる事項を定めることにより、歯科口腔保健の推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施し、もって市民の生涯にわたる健康づくりに寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 歯科口腔保健 歯科疾患の予防等による歯及び口腔の健康の保持増進並びにこれらの機能の維持向上を図ることをいう。
- (2) 歯科医療等業務 歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士その他の歯科医療又は保健指導に係る業務をいう。
- (3) 歯科医療等関係者 歯科医療等業務に従事する者及びこれらの者で組織する団体をいう。
- (4) 保健医療等関係者 保健、医療、福祉又は教育に係る業務に従事する者であって歯科口腔保健に関する業務を行うもの（歯科医療等関係者を除く。）及びこれらの者で組織する団体をいう。
- (5) 歯科検診 歯及び口腔の検診（健康診査及び健康診断を含む。）をいう。

(基本理念)

第3条 歯科口腔保健の推進に関する施策は、次に掲げる事項を基本理念として行うものとする。

- (1) 歯及び口腔の健康が健康寿命の延伸及び生活の質の向上に重要な役割を果たしているという認識の下、市民が、歯科口腔保健に関する正しい知識を持ち、生涯にわたって日常生活において行う歯科口腔保健に関する取組を推進すること。

(2) 乳幼児期から高齢期までのそれぞれの時期における歯並びに口腔及びその機能の状態並びに歯科疾患の特性に応じて、適切かつ効果的に歯科口腔保健を推進すること。

(3) 保健、医療、福祉、労働衛生、教育、食育その他の歯及び口腔の関連分野における施策との連携を図り、その関係者の協力を得て、総合的かつ計画的に歯科口腔保健を推進すること。

(市の責務)

第4条 市は、前条の基本理念にのっとり、歯科口腔保健の推進に関する施策を策定し、及び総合的かつ計画的に実施するものとする。

2 市は、歯科口腔保健の推進に関する施策の策定及び実施に当たっては、国、神奈川県、歯科医療等関係者及び保健医療等関係者との連携及び協力に努めるものとする。

3 市は、市民が歯科口腔保健に関する理解を深め、市民による歯科口腔保健に関する活動への参加を促進するため、歯科口腔保健に関する知識及び歯科疾患の予防に向けた取組に関する普及啓発、歯科口腔保健に関する市民の意欲を高めるための運動の促進その他の必要な施策を講ずるものとする。

4 市は、事業者その他の者が行う歯科口腔保健に関する取組の効果的な推進を図るため、情報の提供、助言その他の必要な支援を行うものとする。

(市民の責務)

第5条 市民は、歯科口腔保健に関する理解を深め、歯科検診及び歯科保健指導を活用する等、生涯にわたって日常生活において自ら歯科口腔保健の取組を行うよう努めるものとする。

(歯科医療等関係者の責務)

第6条 歯科医療等関係者は、良質かつ適切な歯科医療及び歯科保健指導を行うよう努めるものとする。

2 歯科医療等関係者は、歯科口腔保健（歯及び口腔の機能の回復によるものを含む。）の推進に関し、保健医療等関係者との連携に努めるとともに、市が実施する歯科口腔保健の推進に関する施策に協力するよう努めるものとする。

(保健医療等関係者及び事業者の責務)

第7条 保健医療等関係者は、その業務において、歯科口腔保健の推進に積極的な役割を果たすよう努めるとともに、日常生活において歯科口腔保健に関する取組が困難な者に対して、必要な支援を行うよう努めるものとする。

2 保健医療等関係者は、歯科口腔保健の推進に関し、歯科医療等関係者との連携に努めるとともに、市が実施する歯科口腔保健の推進に関する施策に協力するよう努めるものとする。

3 事業者は、その従業員の歯科口腔保健の推進に積極的な役割を果たすよう努めるものとする。

(基本的施策)

第8条 市は、歯科口腔保健を推進するため、次に掲げる事項を基本とする施策を策定し、及び実施するものとする。

- (1) 市民が、歯科口腔保健に関する正しい知識を持ち、日常生活において行う歯科口腔保健に関する取組の推進に関すること。
- (2) 市民が、定期的に歯科検診を受けるための勧奨及び必要に応じて歯科保健指導を受けるための勧奨に関すること。
- (3) 妊娠中における歯科口腔保健の推進並びに歯科口腔保健を通じた母体の健康の保持及び胎児の健全な発育に関すること。
- (4) 乳幼児期及び学齢期（小学校就学の始期から満18歳に達するまでの期間をいう。）における歯科口腔保健の推進及び歯科口腔保健を通じた健全な育成に関すること。
- (5) 成人期（満18歳から満65歳に達するまでの期間をいう。）における歯科口腔保健の推進に関すること。
- (6) 高齢期における歯科口腔保健の推進に関すること。
- (7) 障害児及び障害者の歯科口腔保健の推進に関すること。
- (8) 歯科口腔保健の観点からの食育及び糖尿病その他の生活習慣病に対する対策の推進に関すること。
- (9) 喫煙による口腔内への影響に対する対策の推進に関すること。
- (10) 歯科医療等関係者及び保健医療等関係者に対する情報の提供その他連携強化を図るための体制の整備に関すること。
- (11) 災害時における歯科口腔保健の推進に関すること。
- (12) 前各号に掲げるもののほか、歯科口腔保健の推進に関すること。

(歯科口腔保健推進計画の策定)

第9条 市は、市民の生涯にわたる歯科口腔保健の推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施するため、歯科口腔保健の推進に関する計画（以下「歯科口腔保健推進計画」という。）を定めるものとする。

2 市は、歯科口腔保健推進計画を定めるに当たっては、健康増進法（平成14年法律第103号）第8条第2項の規定に基づき策定する健康増進計画と整合性を図るとともに、市域における官民データ（官民データ活用推進基本法（平成28年法律第103号）第2条第1項に規定する官民データをいう。）を活用するものとする。

(財政上の措置)

第10条 市は、歯科口腔保健の推進に関する施策を実施するため、必要な財政上の措置を講ずるものとする。

(意見聴取)

第11条 市長は、歯科口腔保健推進計画を策定し、若しくはその進捗管理を行い、又は歯科口腔保健の推進に関する重要事項を定めるに当たっては、横浜市附属機関設置条例（平成23年12月横浜市条例第49号）に基づく健康横浜21推進会議の意見を聴くものとする。

(委任)

第12条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

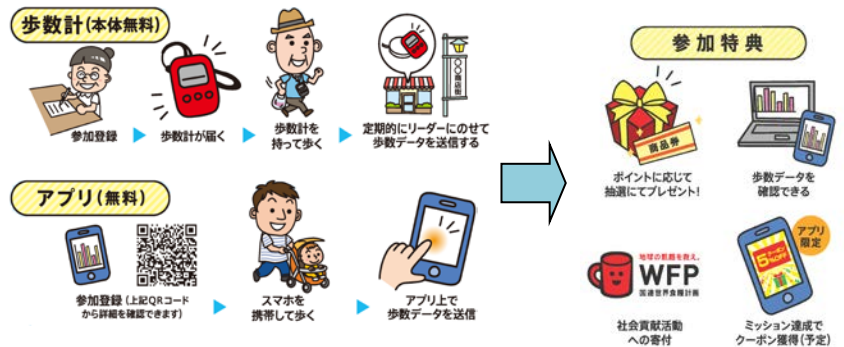
この条例は、平成31年4月1日から施行する。



## 「よこはまウォーキングポイント事業」について

### 1 事業概要

健康寿命の延伸を目指し、日常生活の中で気軽に楽しみながら歩数計や歩数計アプリをダウンロードしたスマホを持ち歩き、ウォーキングを通じた健康づくりに取り組んでいただく事業です。



### 2 平成 30 年度の取組実績

#### (1) 参加登録者数 (31 年 2 月末時点)

歩数計アプリの配信開始 (4 月) 及び、歩数計の申込受付再開 (5 月) により、参加登録者数は、累計で 32 万人を超えました。

また健康経営と連携した取組により、参加事業所数も 980 事業所を超えています。

#### 【歩数計及びアプリ 参加登録者数 (H31. 2 月末時点)】

	歩数計	アプリ	合計	(参考) 目標数
参加登録者数	305,656 人	15,864 人	321,520 人	—
うち 26~29 年度	300,306 人	—	300,306 人	300,000 人
うち 30 年度 (2 月末)	5,350 人	15,864 人	21,214 人	15,000 人

#### (2) 新規参加促進の取組

4 月に配信を開始した歩数計アプリの年代別参加割合は、64 歳までが 9 割以上を占めるなど、歩数計 (64 歳までが約 5 割) と比べて、若い世代や働き世代が多くなっています。その結果、参加者全体の参加割合も 64 歳までの割合が年々拡大しています。

#### 【歩数計及びアプリ 年代別参加割合の推移】

	18~39 歳	40~64 歳	65 歳以上
平成 30 年 12 月末	10.8%	40.2%	49.0%
平成 29 年度末	9.7%	39.1%	51.2%
平成 28 年度末	6.6%	39.4%	54.0%
平成 27 年度末	—	38.8%	61.2%

#### (3) 参加者の継続支援の取組

新たな取組「エンジョイウォーキング 2018 キャンペーン」として、スポーツや商店街の催事に出展した特設ブースで歩数計の販売や相談会等を実施するなど、参加者の継続支援に取り組みました。(計 5 回開催、参加者数延べ約 2,500 人)

また、アプリ導入とともに、歩数計参加者の定期抽選当選本数拡大 (歩数計各回プラス 500 本) や抽選対象枠の拡大※を行うなど、インセンティブ拡充にも取り組んでいます。

(※100 ポイント以上でも毎月歩数を送信した人は対象)

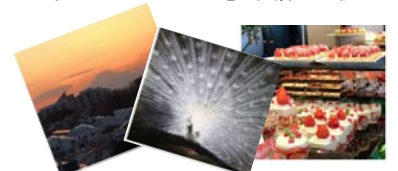
さらに、事業の魅力向上のため、アプリ上で参加者同士の交流にもつながる「第 1 回フォトコンテスト」を開催しました。

(1/1~1/31)

<特設ブースの様子>



<『第 1 回フォトコンテスト』入賞作品一例>



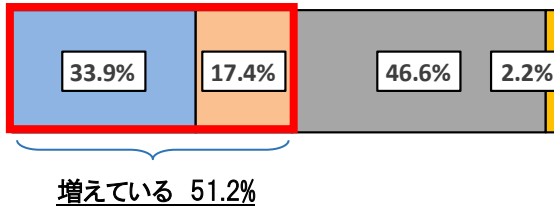
#### (4) 事業検証

毎年のアンケート調査からは、歩数の増加、メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームの改善や、地域とのつながりへの効果が、引き続き見られ、多くの方の健康感向上につながっています。

##### 【平成 30 年度利用状況報告書抜粋】

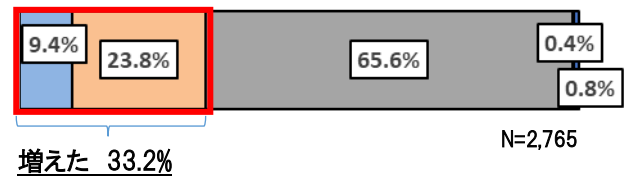
●参加後、半数以上で歩数が増加！

■平均して増えている(1,000歩以上) ■平均して増えている(1,000歩未満)  
□平均して変わらない ■平均して減った N=2,828



●ウォーキングをきっかけに、周囲との会話や挨拶、外出機会が増加

■増えた ■少し増えた ■変わらない  
■少し減った ■減った



●参加後の診断で、メタボやロコモが改善

参加前



メタリックシンドロームと診断

(参考)平成 29 年度 11.0%

参加後



N=344

13.1%の人が  
メタボリックシンドロームで  
なくなった！

参加前



家でつまずいたり  
滑ったりする

参加後



N=288

21.9%の人が  
つまずかなくなった・  
滑らなくなった！

### 3 平成 31 年度の取組について

#### (1) 参加者の継続支援の実施

継続的な健康づくりを後押しする取組として、4月から新たに年間を通じて継続的にウォーキングに取り組んだ方の表彰を始めるほか、定期抽選の当選数等を拡充予定です。

また、30年度から実施している参加者の継続支援のための「特設ブース」の出展回数を増やし、市内各地で参加者の方のサポートを行う予定です。

#### (2) 事業検証の実施

これまで毎年行ってきた、参加者へのアンケート調査や歩数データ分析の事業検証に加え、昨年7月に横浜市立大学及び日本電信電話株式会社との三者で締結した「官民データ活用による超スマート社会の実現に関する包括連携協定」の取組の一つとして、データ分析を行う予定です。

## 「横浜健康経営認証 2019」認証状況等について

### 1 横浜健康経営認証 2019 の認証状況

今年度 3 年目を迎える「横浜健康経営認証」について、認証事業所数が、昨年度比の 3.5 倍となる 199 へと飛躍的に増加しました。応募数・認証数ともに、年々増加しており、市内企業の健康経営に対する気運が高まっています。

(参考資料) 横浜市記者発表資料

### 2 これまでの健康経営普及の取組

- (1) 市民の健康増進を担う健康福祉局と、中小企業とのネットワークを有する経済局が連携して普及啓発に取り組みました。また、各区役所においても、区内事業所に対する普及啓発に取り組みました。

特に、包括連携協定を締結する保険会社等と連携し、協定締結企業が開催する健康経営セミナーでの認証制度の PR 等、積極的に努めてきました。

- (2) また、企業集積地（新横浜や L I N K A I 横浜金沢）に民間協働型の健康経営支援拠点を設置したり、健康経営に関心はあるものの、どこから始めればわからないという要望に応えるため、「横浜健康経営ハンドブック」（30 年 4 月）を発行したりするなど、本市独自の取組みを進めてきました。

### 3 今後の取組について

- (1) 認証をきっかけに健康経営を開始した事業所に、PDCA に基づく取組を実践していただけるよう、スキルアップを目的とした研修等を開催します。
- (2) また、ウェルネスパートナーズ登録事業所が提供する、様々な健康づくりに関連するサービスをわかりやすく情報提供する等、事業所が健康経営に取り組むための環境づくりを強化していきます。

(参考) ウェルネスパートナーズ

健康経営の推進やヘルスケアビジネスの発展等を目的としたオープンなネットワークであり、健康経営を実践する事業所や、健康経営・健康関連のサービスを提供する事業所等で構成される。(登録制)  
平成 30 年 2 月 5 日時点 376 社

### 4 横浜健康経営認証における応募資格の変更

『東京証券取引所・経済産業省が行う「健康経営銘柄」を取得していないこと』を応募資格から削除します。(健康経営銘柄と横浜健康経営認証の両方を取得することによる企業イメージの向上など、企業メリットを考慮)

# 「横浜健康経営認証2019」認証事業所が飛躍的に増えました！

## 昨年度比3.5倍の199事業所を認証！！

### ～市内事業所の健康経営の気運が非常に高まっています～

横浜市では、「従業員の健康保持・増進の取組が、企業の収益性等を高める投資である」とらえ、経営的視点から戦略的に健康づくりを実践する健康経営の取組を、市内事業所の皆様に勧めています。この取組により、生産性向上、人手不足解消など多くの効果が期待できます。

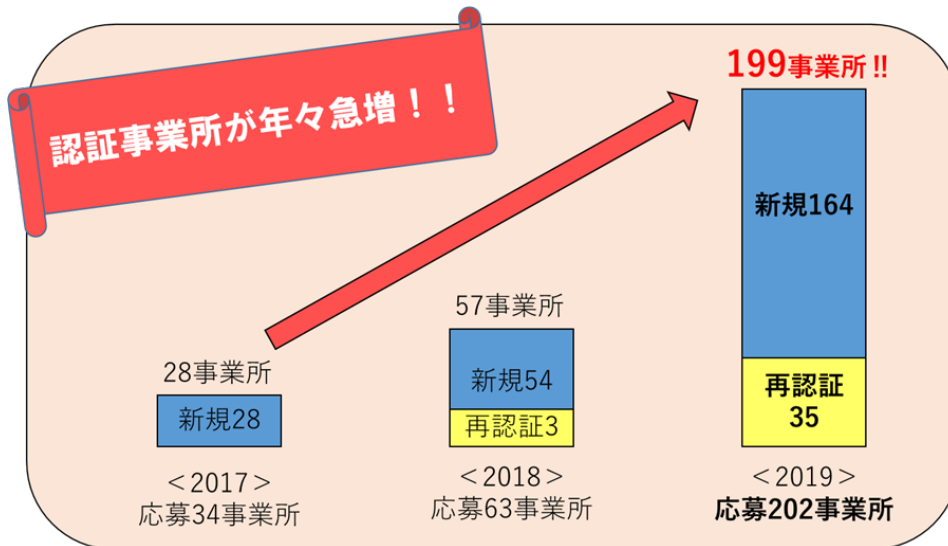
今年度3年目を迎える「横浜健康経営認証」制度について、6月1日から9月28日まで募集を行い、認証委員会による審査を経て、199の認証事業所が決定しました。

(昨年度認証事業所57事業所、昨年度比3.5倍、再認証事業所(※)を含む。)

また、次のとおり認証式を行います。

(※)再認証事業所：2017認証を受けた事業所で、認証期間(2年間)が満了のために、今回、再度認証を受ける事業所。若しくは、2018認証を受けた事業所で、認証期間中にクラスアップを目指して応募し、再認証を受ける事業所。

## 1 認証事業所数の推移



## 2 認証式概要

日時：平成31年1月15日(火)午後2時00分～午後3時30分 (受付 午後1時30分～)

会場：ワークピア横浜(住所：横浜市中区山下町2-4-1)

式次第(予定)：①認証状授与 ②式辞 ③写真撮影

出席者(予定)：認証事業所

横浜市 副市長 荒木田 百合

※認証式の取材を御希望の方は、事前に下記まで御連絡をお願いいたします。

健康福祉局健康安全部保健事業課 健康経営認証担当 (Tel 045-671-2454 /E-Mail [ke-partners@city.yokohama.jp](mailto:ke-partners@city.yokohama.jp))

## 【参考】「横浜健康経営認証」制度概要

### 1 制度の開始

平成 28 年度から（今年度の募集が第 3 回）

### 2 対象の事業所

市内に本社・本店、支社・支店、営業所等を有する事業所（NPO 法人、公益法人等も含む）

### 3 認証区分

クラス A の要件を満たしていないと判断される場合は、「認証外」となります。

#### (1) 経営者の理解と関与【クラス A】

健康経営宣言等の明文化及びその意思を具現化した取組を行っているもの

#### (2) 健康経営の推進【クラス AA】

クラス A の要件を満たし、さらに健康経営の推進体制の整備、従業員の健康課題の把握及び健康課題に即した取組を行っているもの

#### (3) 取組結果の評価【クラス AAA】

クラス AA の要件を満たし、さらに健康課題に即した取組の結果を評価し、次の取組につなげているもの

### 4 認証期間

応募の翌年度の 4 月 1 日から 2 年間

※認証期間中に認証区分のクラスアップを目指し、再度応募することも可能です。

※認証期間が満了する年度に、再度申請、審査を受けることで継続することができます。

### 5 認証メリット

#### (1) 認証マークの付与・認証状の発行(全ての認証事業所)

#### (2) 横浜市ホームページ等で PR (全ての認証事業所)

#### (3) 活動支援(クラス A、クラス AA が中心)

健康経営の取組のステップアップや継続を支援するため、保健師・栄養士・産業カウンセラー等による訪問相談等を行います。

#### (4) 融資制度の優遇(クラス AA、クラス AAA)

横浜市中心企業融資制度において、金利優遇や保証料助成があります。

#### (5) よこはまウェルネスパートナーズへの登録

お問合せ先		
健康福祉局保健事業課健康づくり担当課長	室山 孝子	Tel 045-671-3376
経済局ライフイノベーション推進課担当課長	森田 伸一	Tel 045-671-4603

※経済記者クラブへも同時発表しています。

※「健康経営」は、特定非営利活動法人 健康経営研究会の登録商標です。

❀ 以下の事業所が認証されました ❀



### 横浜健康経営認証 2019 クラスAAA <32事業所> 五十音順

(株) I H I ビジネスサポート 横浜事業所／愛和食品(株)／アクロクエストテクノロジー(株)／旭建設(株)／(株)アブソルート／アマノ(株)／(株)N S P／(株)神奈川ウッドエネルギーセンター／(公財)神奈川県予防医学協会／京セラ(株) 横浜中山事業所／(株)光電社／向洋電機土木(株)／(株)三文サービス／(株)春峰園／(株)ソフテックス／(株)ダイイチ／武松商事(株)／(株)立花屋／(株)T & S／(株)ティージーエス／東宝タクシー(株)／(株)東洋システムサイエンス／(特養)横浜敬寿園／ハマゴムエイコム(株)／(有)常陸環境／古河電気工業(株) 横浜事業所／ボッシュエンジニアリング(株)／横浜機工(株)／(公財)横浜市体育協会／(公財)横浜YMCA／国立研究開発法人 理化学研究所 横浜事業所／ローム(株)横浜テクノロジーセンター



### 横浜健康経営認証 2019 クラスAA <59事業所> 五十音順

(株) I C O N／(株)アイネット／(株)旭広告社／S B S ソリューション(株)／N T T コムマーケティング(株)神奈川営業所／(株)オオスミ／大塚製薬(株) 横浜支店／影島興産(株)／神奈川県住宅供給公社／学校法人 神奈川大学／(有)木須調剤薬局／(医)恵生会 上白根病院／(株)コア・エレクトロニックシステム／国際通信企画(株)／(株)ジェイコム南横浜／重田建設企業(株)／ジャパン マリンユナイテッド(株)本社／昭和電工(株) 横浜事業所／新栄重機土木(株)／新興プランテック(株)／(福)親善福祉協会 国際親善総合病院／親和興業(株)／(有)鈴木工業／(株)センチュリー工業／(福)千里会 新横浜パークサイドホーム／(株)そごう・西武 西武東戸塚店／(株)大成E R C／(株)大八／大洋建設(株)／(株)ダッドウェイ／東電同窓電気(株)／東洋製版(株)／(特養)第2新横浜パークサイドホーム／(株)菜の香／奈良建設(株)／奈良造園土木(株)／(株)二十一設計／ニッパ(株)／日本エンジニアリング(株)／日本貿易印刷(株)／バイオコミュニケーションズ(株)／(株)濱田屋商店 横浜営業所／フクダライフテック横浜(株)／(特養)芙蓉苑／丸忠建工(株)／(株)三上／(株)メディセオ 神奈川A L C／メルビック電工(株)／(株)モリヤマ／安武測量設計(株)／(株)八千代ポーター／ヨコキ(株)／横浜環境保全(株)／(公財)横浜企業経営支援財団／(株)横浜銀行／公立大学法人 横浜市立大学／横浜トータルプランニング(株)／(福)横浜YMCA福社会／(福)緑成会 緑の郷

裏面あり

横浜健康経営認証 2019 クラスA <108 事業所> 五十音順

あおい社会保険労務士法人／(株)青柳製作所／アクサ生命保険(株) 神奈川FA支社／  
 アクサ生命保険(株) 公法人部神奈川オフィス／アクサ生命保険(株) 横浜FA支社／  
 アクサ生命保険(株) 横浜支社／アクサ生命保険(株) 横浜パートナービジネス営業部／  
 (株)アットウェア／(株)アトリエネオ／雨宮自動車工業(株)／アライグリーン(株)／  
 (株)安藤建設／(特養)いずみ芙蓉苑／(有)一建テック／一管(株)／(医)I P P O 五條歯科医院／  
 (特非)innocent／(株)インテリジェントシステムズ／(株)ウィルパートナーズ／  
 (株)Veritas Japan／エージェーエス(株)／  
 (株)エス・エイチ インターナショナル トレーディング／(株)大久保恒産／岡谷セイケン(株)／  
 お茶と海苔 (㊦) いしだ園／海洋電子工業(株)／(株)神奈川銀行／神奈川県保険グループ(株)／  
 (株)神奈川保健事業社 本社／河本開発工業(株)／共栄建機(株)／(有)協和タイヤ商会／  
 (株)グリーン／(株)グッドフォーチュン／グロースサポート社労士事務所／  
 (株)ケイ・エム・ディ・エス／(株)京急百貨店／(株)建築構工法研究所／  
 (一社)こうなん区民利用施設協会／港南ひまわり保育園／(福)こうよう会／(株)黄金メッキ工場／  
 (株)コスメディアラボラトリーズ／(株)栄企業／三信塗工(株)／三和化成工業(株)／  
 (株)システムミラ／(株)シビックロード／(株)渋谷興業／ジュノー(株)／(株)シルバーエッグス／  
 (株)新世／(福)親善福祉協会 介護老人保健施設リハパーク舞岡／  
 (福)親善福祉協会 しんぜん訪問センター／(福)親善福祉協会(特養)恒春の丘／  
 (福)親善福祉協会(特養)恒春ノ郷／(福)親善福祉協会 横浜市芹が谷地域ケアプラザ／  
 芹が谷びよっこ保育園／(株)相鉄アーバンクリエイツ／相鉄興産(株)／  
 (株)相鉄ビルマネジメント／(株)ソフテム／ソルブ(株)／(有)タイワ／(株)武居商店／  
 中高年事業団 やまて企業組合 横浜支店／(株)チュウバチ／(株)テクノジャパン／  
 (株)ニッター／(株)日本工業所／日本保安工業(株)／日本濾水機工業(株)／  
 (株)New Healthcare Design／(株)NextSolution／一造園土木(株)／  
 (特非)びーのびーの 港北区地域子育て支援拠点 どろっふ・どろっふサテライト／  
 (株)ひゅうがメディカル／(株)ファイブディメンション／(株)ファミリー・ホール／  
 (有)双葉印刷所／(株)フックアップ／(有)プラスエヌ／(株)ヘルツ／(株)マザーライク／  
 馬淵建設(株)／(株)マルビ／(株)丸舗建設／(株)三徳／(株)三春情報センター／  
 みらい社会保険労務士法人／(有)ムツミ硝子／(株)山本建設／  
 社会保険労務士法人 ユナイテッドブレインズ／(有)洋洋工業／(福)横浜市社会事業協会／  
 (公財)横浜市シルバー人材センター／(福)横浜市福祉サービス協会／(福)横浜社会福祉協会／  
 (株)横浜セイビ／横浜ソフトウェア(株)／(株)横浜ディスプレイサービス／  
 横浜花き園芸(株)／横浜プレジジョン(株)／(有)ライフサポート／  
 レヴェックスコンサルタント(株)／(株)ワイズラボ

※公表を希望されない事業所については、掲載しておりません。

## 市民の健康づくりをテーマとした企業・団体等との連携について

## 1 趣旨

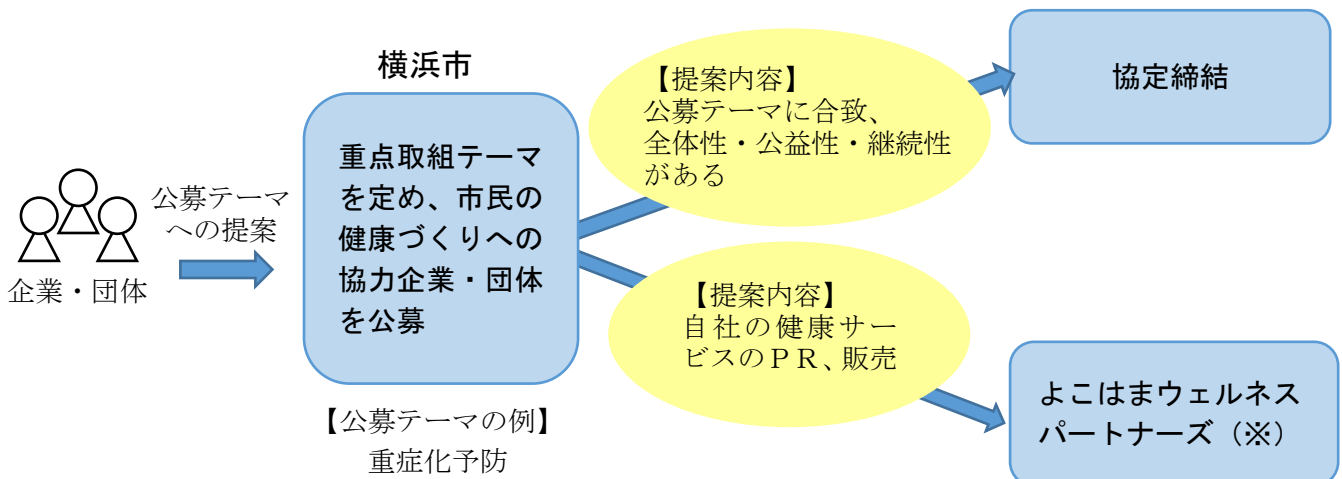
横浜市では、市政の推進にあたり、民間企業・団体と協定を締結し、連携して事業を進めています。その一環として、市民の健康づくり（健康横浜 2 1 の推進）をテーマとした協定を締結しております。

第 2 期健康横浜 2 1 の基本目標である健康寿命の延伸、市民の健康づくりの推進には、世代や対象に応じた幅広い取組が必要であり、企業・団体等との連携は不可欠であることから、今後は、市として重点的に取り組みたいテーマを明確にし、そのテーマに御協力いただける企業・団体を公募し、協定を締結する方法に変更します。

## 2 今後の方向性

第 2 期健康横浜 2 1 の基本目標である健康寿命の延伸、市民の健康づくりの推進には、世代や対象に応じた幅広い取組が必要であり、企業・団体等との連携は不可欠であることから、今後は、市として重点的に取り組みたいテーマを明確にし、そのテーマに御協力いただける企業・団体を公募し、協定を締結する方法に変更します。市民の健康づくりをテーマとし協定を締結した企業・団体を市ホームページ上で一律に紹介することを予定しています。

## 【フロー（イメージ）】



(※)よこはまウェルネスパートナーズ：健康経営の推進や健康関連ビジネスの創出に向けたオープンなネットワーク



【参考】市民の健康づくり等をテーマとした協定一覧

(1) 健康福祉局保健事業課が窓口、市民の健康づくり等を主のテーマとした協定

	協定締結先	締結日	内容
1	アフラック (アメリカンファミリー生命)	H24. 5. 8	がん啓発・がん検診の受診率向上に向けた包括的連携に関する協定
2	ファイザー株式会社	H25. 10. 23	禁煙・疾患(ニコチン依存症)啓発活動の協定
3	全国健康保険協会 神奈川支部	H25. 11. 22	健康づくり推進事業に係る覚書
4	J A横浜	H26. 1. 9	市民の健康づくり・介護予防事業に係る包括連携に関する協定
5	第一生命保険株式会社	H27. 3. 4	健康づくりに係る包括的連携に関する協定
6	横浜信用金庫	H27. 5. 26	市民の健康づくりに係る連携に関する協定
7	一般社団法人 横浜市薬剤師会	H28. 3. 31	市民の健康づくりに係る包括的連携に関する協定
8	ネオファースト生命 保険株式会社	H28. 6. 9	市民の健康づくりに係る連携に関する覚書
9	神奈川銀行	H30. 1. 11	健康経営支援等に係る包括連携に関する協定
10	アクサ生命保険 株式会社	H30. 1. 25	市内企業等の健康経営の推進に係る包括的連携に関する協定
11	住友生命保険相互会社 横浜支社	H31. 1. 21	市民の健康づくり及び市内事業所等の健康経営推進に係る包括的連携に関する協定

(2) 複数テーマの中に市民の健康づくり等を含んでいる包括連携協定

	協定締結先	締結日	連携事項
1	イオン株式会社	H24. 5. 9	健康づくり・食育に関すること
2	(株)セブン-イレブン・ ジャパン (株)イトーヨーカ堂 (株)そごう・西武	H24. 6. 14	地産地消・食育・健康づくりの推進に関する こと
3	(株)伊藤園	H24. 11. 28	食育に関すること
4	カルビー株式会社	H28. 9. 1	健康づくりの推進に関すること
5	日本 KFC ホールデイン グス株式会社	H29. 3. 7	食育・地産地消に関すること
6	損害保険ジャパン 日本興和株式会社	H29. 10. 19	健康増進に関すること
7	東京ガス株式会社	H30. 11. 6	健康増進、食育に関すること

第2期

健康横浜21

今の  
自分の  
ために!将来の  
自分の  
ために!よこはま  
健康アクション  
Stage2

2018年度~2022年度

いつもの生活に<sup>プラス</sup>1で健康寿命を延ばそう!!

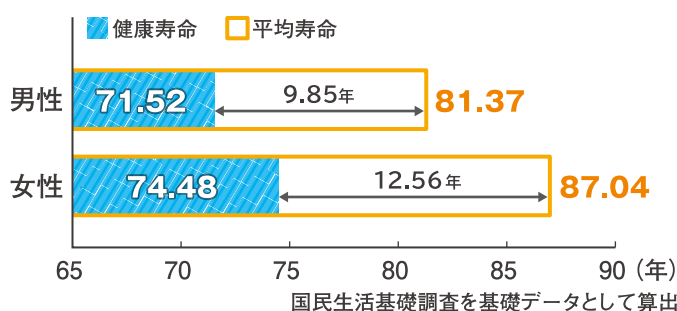
いつまでも健康で元気に過ごせるよう、できる取組からあなたの生活にプラス1!

具体的なActionは裏面へ

## 「健康寿命」とは

「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」のことです。

〈横浜市の平均寿命と健康寿命(2016年)〉

あなたは  
どちらを  
目指す?

横浜市では、健康寿命の延伸を目指し、第2期健康横浜21(市民の健康づくり計画)の重点取組として、10の取組を「よこはま健康アクションStage2」として取りまとめ、特に力をいれて取り組んでいます。

「よこはま健康アクションStage2」の詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/kenyoko21/plan/action2014.html>

右記の二次元コードからもアクセスできます!



# よこはま健康アクションStage2〈10の取組〉

## あなたはどのActionから始めますか？



Action  
1

### 毎年特定健診・がん検診を受けましょう

生活習慣病やがんを早期発見して、健康を保てるよう、適切な治療や自分に合った健康づくりを進めましょう！  
横浜市国民健康保険の特定健診は無料で受けられます。



詳細はこちら

Action  
2

### すき間時間に健康づくりに取り組もう

仕事の合間に職場でストレッチしたり、エレベーターの代わりに階段を利用するなど、できることから始めてみましょう。



Action  
3

### 特定健診やがん検診結果から生活習慣を見直そう

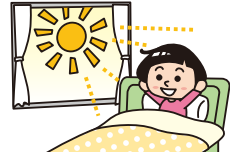
自分の健康状態を確認して健康を保つための生活習慣改善方法を選びましょう！  
加入している健康保険組合やお住いの区福祉保健センターにも相談してみよう！



Action  
4

### しっかり休養・睡眠をとろう

スマートフォンの見過ぎやゲームのし過ぎで夜更かししない、朝起きたら日光を浴びるなど、規則正しい生活を心がけよう！



Action  
5

### 健康に関する情報を周りと交換しよう

健康に関する情報を周りにも伝え、みんなで健康づくりを広げていきましょう。



Action  
6

### 定期的に運動しよう

あと「1000歩」、あと「10分」、楽しくウォーキングを続けよう！  
よこはまウォーキングポイントのスマートフォンアプリがあります。ぜひご活用ください。



詳細はこちら



Action  
7

### 周りの人と話して元気に過ごそう

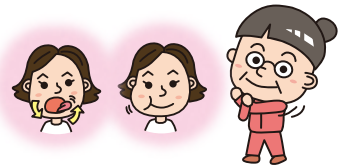
人とつながりをつくることは健康づくりに効果があると言われています。趣味・知識・経験を活かすなど、自分に合った活動に参加してみましょう。



Action  
8

### 若いうちからの運動や歯磨きで体力や口腔機能の低下を予防しよう

口の機能の衰えは、からだの衰えにも大きく関わっています。お口の体操や定期的な歯科検診受診など、若いうちから介護予防・健康づくりに取り組みましょう！



Action  
9

### 周りに人がいたらタバコは吸わないようにしましょう

受動喫煙から子どもたちを守りましょう。喫煙者は禁煙にチャレンジしてみましょう！



「受動喫煙のない社会を目指して」▲ロゴマーク

Action  
10

### 自分に関連する健康データに関心を持とう

家族、仲間、みんなで健康に暮らしていくために、データを活用しましょう！

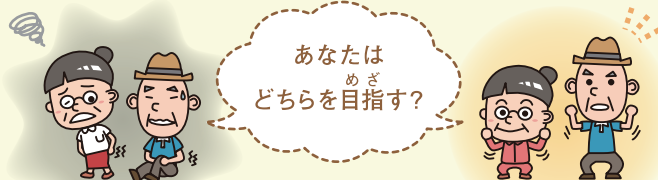


だい き  
第2期

けんこうよこはま

健康横浜 21

げんき  
さい す  
100歳まで元気に過ごす!  
はじ  
できることから始めよう!

いま  
じぶん  
の  
ため  
に将来  
の  
自分  
のため  
にけんこう あくしょん すてーじ  
よこはま健康アクションStage2ねんど ねんど  
2018年度~2022年度よこはまし とし かさ げんき く  
横浜市では、歳を重ねても元気で暮らせるよう、だい き けんこうよこはま しみん けんこう けいかく すす とりくみ  
第2期健康横浜21(市民の健康づくり計画)を進める取組としてけんこう あくしょん すてーじ  
「よこはま健康アクションStage2」をとりまとめ、ちから い と く  
力を入れて取り組んでいます。とりくみ はじ  
みなさんもぜひできる取組から始めてみませんか。ぐたいてき あくしょん うらめん  
具体的なActionは裏面へあくしょん みな と く こうどう  
※「Action」とは、皆さんに取り組んでいただきたい行動です。けんこう あくしょん すてーじ しょうさい ほーむ ペーじ らん  
「よこはま健康アクションStage2」の詳細はホームページをご覧ください。<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/kenyoko21/plan/action2014.html>みぎ にじげんこーど あくせす  
右の二次元コードからもアクセスできます!

げんき す とりくみ はじ  
 いつまでも元気で過ごせるよう、できる取組から始めてみましょう！

あくしょん  
 Action  
 1

けんこうしんだん けんしん う  
**健康診断・がん検診を受けよう！**

かぞく まわ ひと けんしん う き  
 家族や周りの人にどんな健診が受けられるか聞いてみよう。  
 よこはましこくみんけんこうほけん とくていけんしん むりょう えん う  
 横浜市国民健康保険の特定健診は無料(0円)で受けられます。



しゆさい  
 詳細はこちら

あくしょん  
 Action  
 2

え れ べー たー か かいだん りよう  
**エレベーターの代わりに階段を利用しよう！**  
 あいま かんたん たいそう とく  
**合間に簡単な体操に取り組もう！**

ひるやす がっこう しょくば すとれっち はじ  
 昼休みに学校や職場でストレッチしたりするなど、できることから始めてみましょう。



あくしょん  
 Action  
 3

けんこうしんだん けっか  
**健康診断の結果から**  
 せいかつ みなお  
**生活を見直そう！**



き けんこうしんだんけっか ひと びょういん す  
 気になる健康診断結果がある人は、病院や住んで  
 く くやくしょ そうだん  
 いる区の区役所などに相談してみましょう。

あくしょん  
 Action  
 4

はや ね  
**早く寝て**  
 はや お  
**早く起きよう！**



よふ あさお にっこう  
 夜更かしをしない、朝起きたら日光をあびることを  
 こころ  
 心がけましょう。

あくしょん  
 Action  
 5

からだ  
**体にいいことを**  
 はな  
**みんなで話そう！**



かぞく なかま けんこう く  
 家族、仲間、みんなで健康に暮らして  
 けんこう かん じょうほう きょうゆう  
 いくために、健康に関する情報を共有し、  
 けんこう ひろ  
 みんなで健康づくりを広げていこう。

あくしょん  
 Action  
 6

**いつもより**  
 おお ある  
**ちょっと多めに歩こう！**

うおーきんぐぽいんと  
 よこはまウォーキングポイント  
 すまーとふぉんあぷり  
 のスマートフォンアプリが  
 あります。ぜひご活用ください。



しゆさい  
 詳細はこちら

あくしょん  
 Action  
 7

ひと はな げんき  
**人と話すことが元気のもと**  
 まわ ひと はな  
**周りの人と話そう！**

ひと けんこう  
 人とのつながりをつくるのが健康づくり  
 き め い  
 に効き目があると言われています。



あくしょん  
 Action  
 8

わか うんどう  
**若いうちから運動や**  
 は  
**歯みがきをしっかりやろう！**



あくしょん  
 Action  
 9

ひと  
**人のいるところでは**  
 す  
**たばこは吸わない！**

さき けむり からだ  
 たばこの先からでる煙には、体に  
 わる ぶっつ ぶく  
 悪い物質が含まれています。



じゅうきつえん しゃかい めざ ろごまーく  
 「受動喫煙のない社会を目指して」ロゴマーク▶

よこはましけんこうふくしきよくほけんじぎょうか  
 横浜市健康福祉局保健事業課

よこはましなかくみなとちよう  
 〒231-0017 横浜市中区港町1-1

でんわ  
 電話 045-671-2454

ふあつくす  
 FAX 045-663-4469

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko>

